NEPRO-04/08a
NEPRO-02/04b

Ver2.0.0 以降　for NTT ひかり電話

SETUP MANUAL

設置・設定マニュアル

NEPROJAPAN co.,ltd.

第1.0版

株式会社ネプロジャパン

改版履歴

版数	変更日付	変更内容
1.0 版	2007/12/1	初版(2.0.0 版)

目次

目次 2
本マニュアルについて 4

１章 はじめに 5
１－１ 特徴 5
１－２ 本体各部の名称と機能 6
機器前面 6
機器背面 7

２章 接続と設定準備 8
２－１ 各機器の接続（ＮＴＴ東日本エリアで利用する場合） 8
２－２ 各機器の接続（ＮＴＴ西日本エリアで利用する場合） 9
２－３ 電源を入れる 10
背面ランプ表 10
２－４ パソコンを本装置に接続する 11
２－５ パソコンの IP アドレスを設定する 12
Windows XP の場合 12
Windows 2000 の場合 13
Windows 95/98/Me の場合 14
２－６ パソコンの IP アドレスを確認する 15
Windows　2000/XP の場合 15
Windows　95/98/Me の場合 16
２－７ パソコンの IP アドレスを再取得する 17
Windows　2000/XP の場合 17
Windows　95/98/Me の場合 18
２－８ 設定画面について 19
設定画面の説明 20
設定メニュー 21

３章 IP 電話の設定 22
３－１ 装置共通設定を行なう 22
設定を保存・反映する 24
３－２ 電話機能設定を行う 25
１．基本設定 25
２．内線発信番号・内線着信チャネル 26
３．着信ポートの設定（代表番号組設定） 28
４．番号編集機能 30
５．回線設定（アナログ・BRI） 352

４章 管理・バックアップ設定 35
４－１ MAC アドレス等（システム情報）を表示する 35
４－２ 各種ログのバックアップを行う 36

４－３ パスワードを設定する、時刻を変更する 37
４－４ 設定のバックアップ/リストアを行う 38
４－５ 初期化を行う、ファームウェア更新を行う 39
４－６ Ping テストを行う、再起動を行う 40
５章 ルータ機能の設定 41
５－１ 接続先を設定する 41
５－２ 接続先を選択する 43
５－３ ブリッジ機能を利用する 45
５－４ LAN ポートの設定を行う 46
５－５ セキュリティ設定をする 47
１．パケットフィルタを設定する 47
２．不正アクセスの設定 50
５－６ ネットワーク設定を行う 51
１．DMZ ホスト機能を設定する 51
２．ポート転送を設定する 52
３．アドレスマッピングを設定する 53
４．スタティックルーティングを設定する 54
５．ダイナミック DNS を設定する 55
６．Qos を設定する 57

本マニュアルについて

以下は本マニュアル内で利用している記号の説明です。

	：注意点です。操作の際はご注意ください。
	：禁止事項です。誤動作の原因になりますので絶対に行わないでください。
＊	：必須入力項目です。必ず入力してください。
●	：デフォルト設定です。

- ◆ 本書および本製品の一部または全部を無断で転載、複製、改変することはできません。
- ◆ 本書および本製品の内容は、改変・改良・その他の都合により予告無く変更することがあります。
- ◆ 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失・事業の中断・記録内容の変化・消失など）に関して、当社は一切責任を負いません。
- ◆ 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- ◆ 接続機器との組み合わせによる誤動作から生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- ◆ 『Windows® XP、Windows® 2000 Professional、Windows® Millennium Edition、Windows NT® Workstation 4.0、Windows® 98 Second Edition、Windows® 98、Windows® 95』は 米国 Microsoft Corporation の商品名称または登録商標です。
- ◆ その他の会社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。
- ◆ 別途、取扱説明書がございますので併せてご参照ください。

1章　はじめに

このマニュアルには、本装置を設置する際の設定方法や、接続方法について書かれています。
ご利用の前にぜひご一読ください。

1－1　特徴

NEPRO-04/08a 及び NEPRO-02/04b は、中小・中堅規模（SME）オフィス向けの次世代 VoIP ゲートウェイです。ゲートウェイ機としては、ビジネスホン等の主装置とルータ間に設置し、ブロードバンド回線を通じて最大 8 チャネルの VoIP 回線の確保を実現します。

通信・管理コストの削減

本装置を設置することで、電話回線の負担を、キャリア IP 網を利用することで定額化を行う事ができます。

既存電話システムとの共存可能

本装置は FXS ポート（最大 8 ポート）または BRI ポート（最大 4 ポート）を装備しておりますので、既存の電話システムをｱﾅﾛｸﾞ 8 回線分または ISDN4 回線分接続することができます。柔軟な番号設定が可能ですので既存環境をそのままに IP 電話番号を PBX 番号と関連付けることが可能です。

柔軟な番号組み

本装置を用いることにより、ひかり電話網（SIP/IP 側）とｱﾅﾛｸﾞ端末または ISDN 端末を接続することにより、従来の PBX 側番号を IP 網番号として透過的に接続することができます。

本装置を用いることにより、ひかり電話網（SIP/IP 側）とｱﾅﾛｸﾞ端末または ISDN 端末を接続することにより、従来の PBX 側番号を IP 網番号として透過的に接続することができます。
また、番号変換機能を利用することで、番号体系変換も可能であり、PBX 番号側と IP 番号側をシームレスに運用することが可能です。

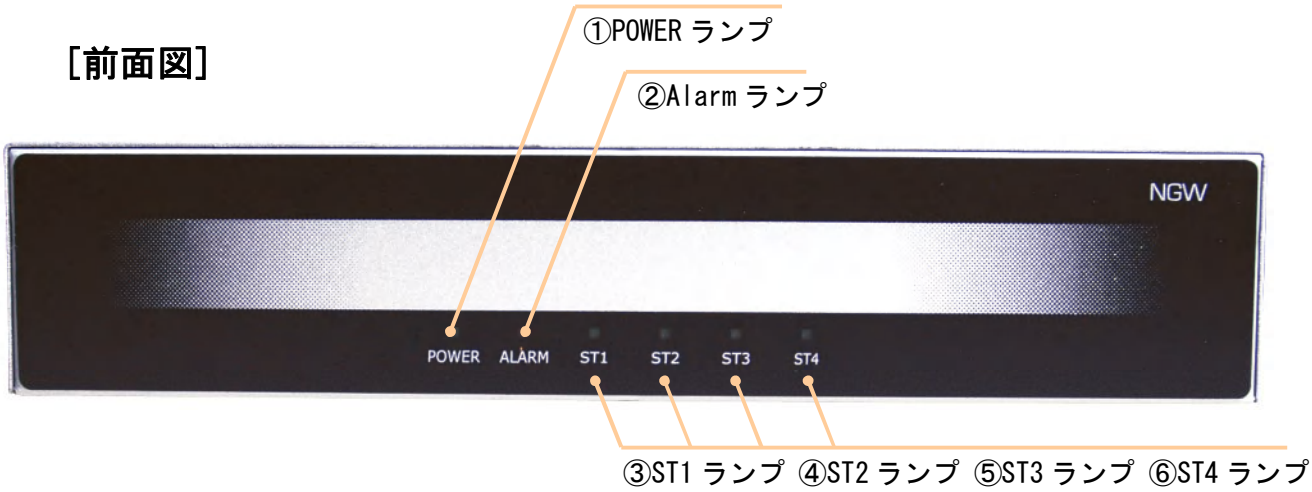
1－2　本体各部の名称と機能

本装置の前面と背面の各ランプ、ポートについての解説をします。

機器前面

【NEPRO-04/08a, NEPRO-02/04b 共通】

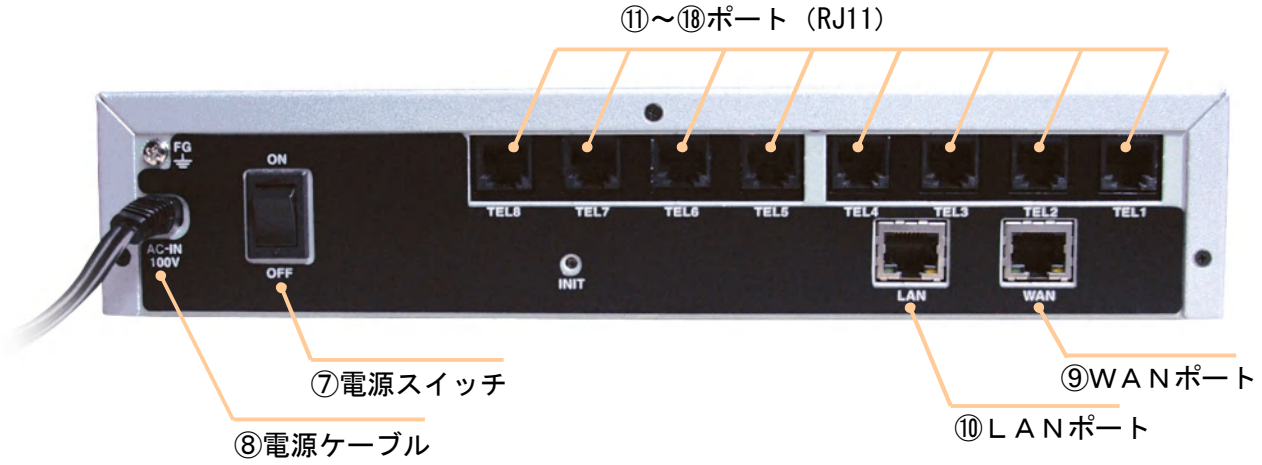
［前面図］



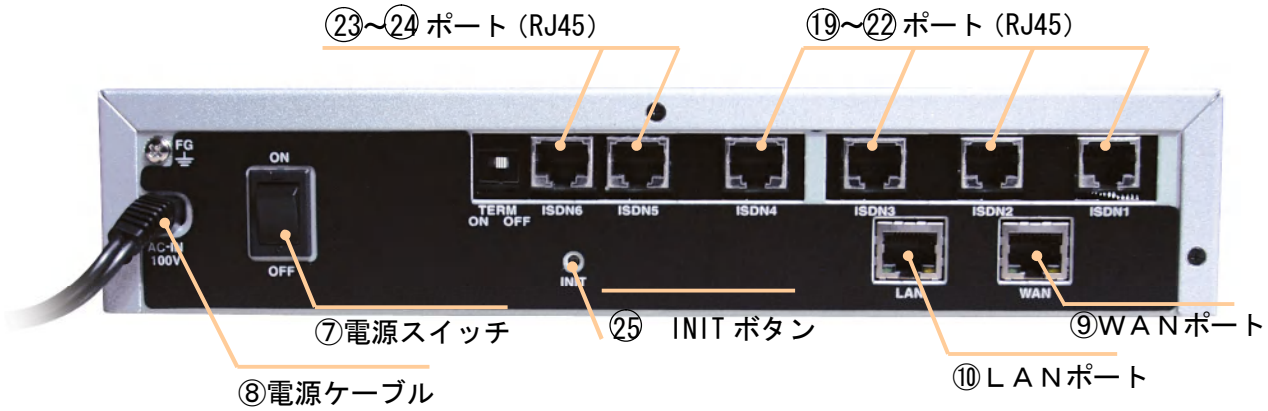
名称	詳細
①POWER ランプ	点灯：電源が入っている状態です。 消灯 ： 電源が入っていない状態です。
②Alarm ランプ	点灯：発着信を行うことが不可能な状態です。 消灯：発着信を行うことが可能な状態です。
③ST1 ランプ	点灯：出荷初期状態 消灯：設定情報が更新されたとき。
④ST2 ランプ	点灯：登録サーバへの番号登録が成功したとき。 点滅：通話中のとき。消灯：番号登録が失敗したとき。
⑤ST3 ランプ	点灯：PPPoE 接続が確立したとき。 消灯：PPPoE 接続が未確立のとき、または失敗したとき。
⑥ST4 ランプ	点灯：設定サーバへ接続が成功したとき。 点滅：設定サーバへの接続に失敗したとき。 消灯：設定サーバへのセッション未確立のとき。

機器背面

【 NEPRO-04a/08a 】



【 NEPRO-02b/04b 】



名称	詳細
⑦　電源スイッチ	ON：電源を ON します。 OFF：電源を OFF します。
⑧ 電源ケーブル	AC100V 電源に接続します。
⑨⑩ WAN/LAN ポート （RJ45）	付属の LAN ケーブルを使用し、WAN および LAN と接続します。 電源 ON 時に右下のランプが点灯します。
⑪～⑱ポート（RJ11）	PBX/主装置のアナログポートまたは電話機に接続します。 ※04a の場合は TEL5～TEL8 はありません。
⑲～㉒ポート（RJ45）	PBX/主装置の BRI ポートに接続します。リンク確立時にポート下部が点灯します。 ※02b の場合は ISDN3～ISDN4 はありません。
㉓～㉔ポート PBX 同期用ポート（RJ45）	S/T 点、PBX または他のゲートウェイと接続し機器を同期させます。
㉕ INIT ボタン	機器の初期化を行う際、このボタンを押しながら電源投入します。ボタンは、電源投入後も 5 秒間は押し続けて下さい。

2章　接続と設定準備

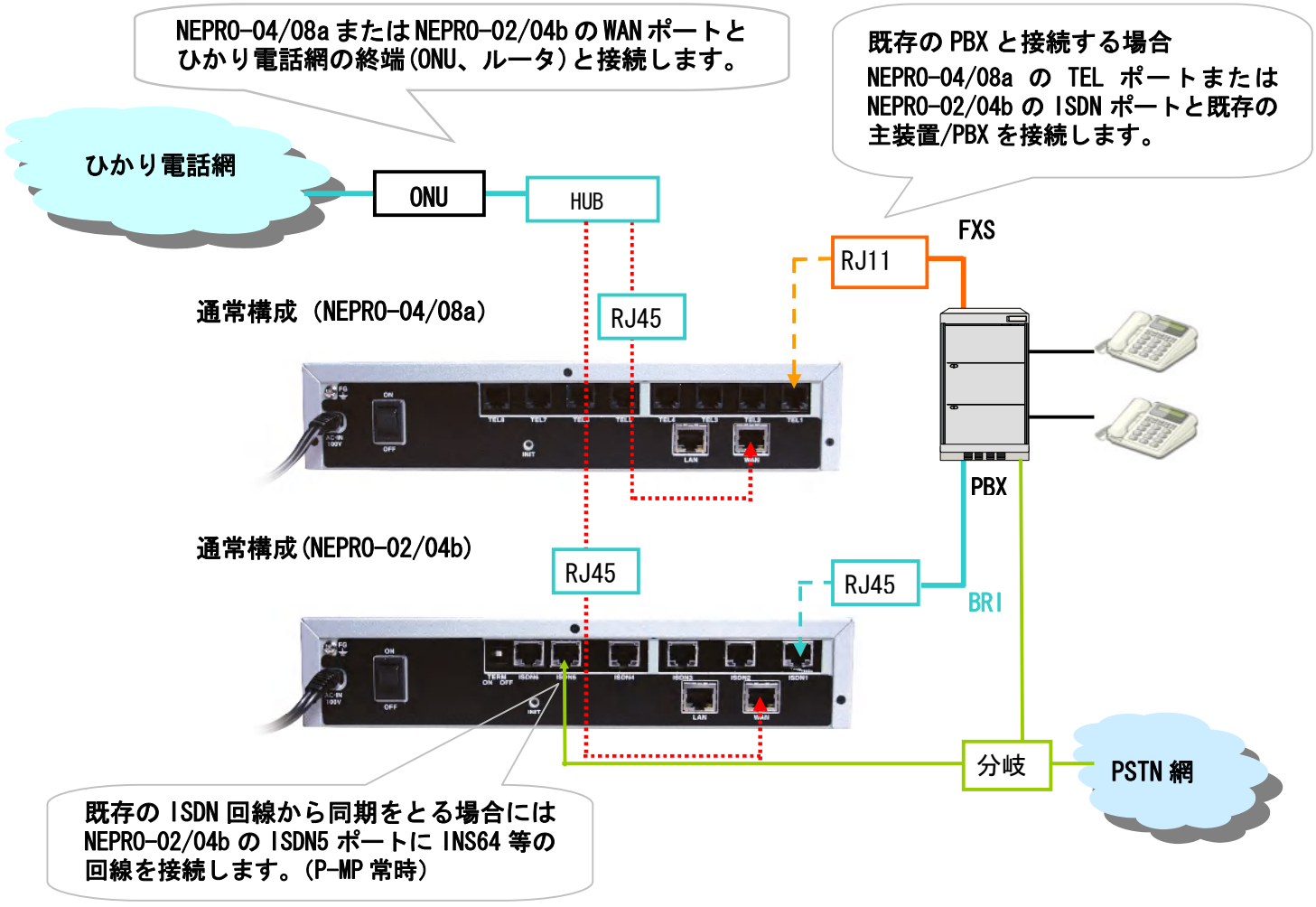
この章では本装置の設定を行う前の設定用パソコンの設定、機器の接続について解説します。

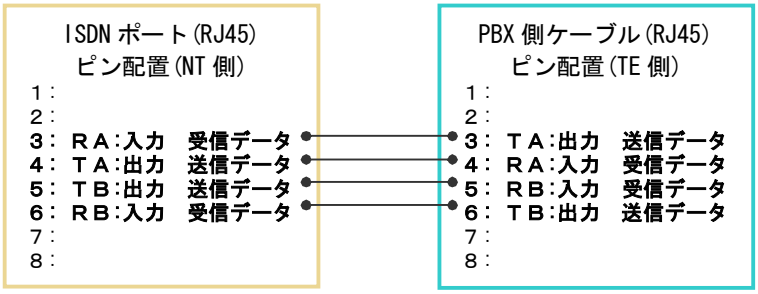
2−1　各機器の接続(NTT東日本エリアで利用する場合)

本装置を下図のように接続します。

１．ＷＡＮポートとひかり電話終端装置と接続します。

２．ＩＳＤＮポートまたはＴＥＬポートとＰＢＸを接続します。



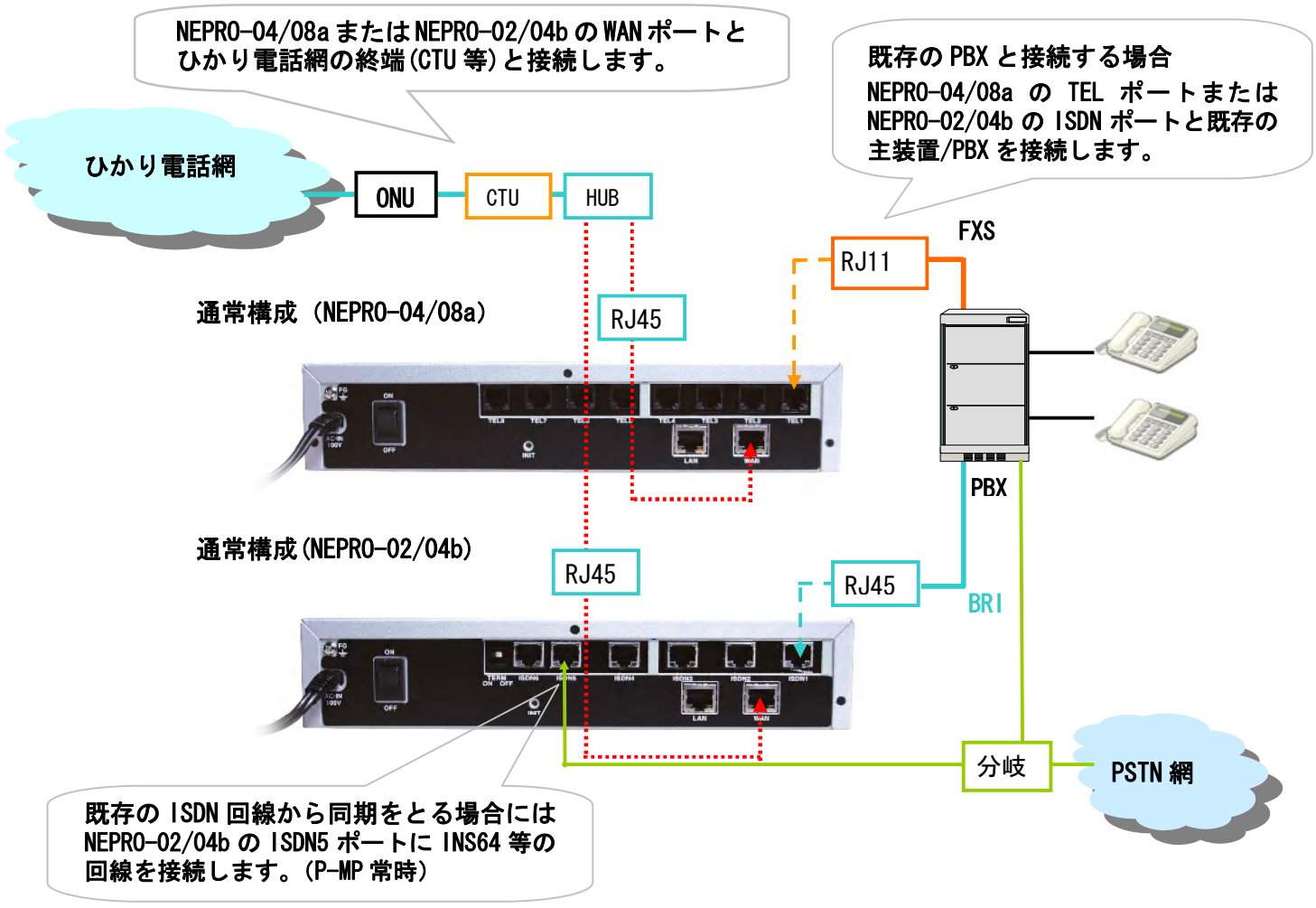


2−2　各機器の接続(NTT西日本エリアで利用する場合)

本装置を下図のように接続します。

１．ＷＡＮポートとひかり電話終端装置と接続します。

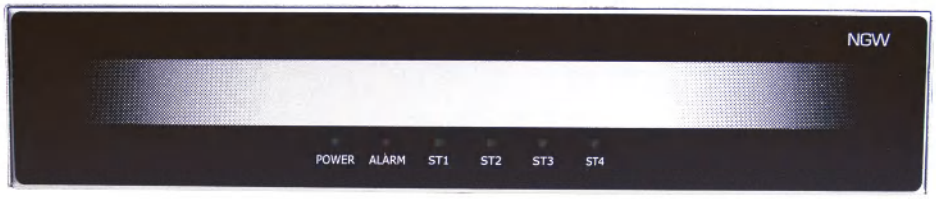
２．ＩＳＤＮポートまたはＴＥＬポートとＰＢＸを接続します。



ISDN ポート(RJ45) ピン配置(NT 側)		PBX 側ケーブル(RJ45) ピン配置(TE 側)	
1：		1：	
2：		2：	
3：	ＲＡ:入力　受信データ	3：	ＴＡ:出力　送信データ
4：	ＴＡ:出力　送信データ	4：	ＲＡ:入力　受信データ
5：	ＴＢ:出力　送信データ	5：	ＲＢ:入力　受信データ
6：	ＲＢ:入力　受信データ	6：	ＴＢ:出力　送信データ
7：		7：	
8：		8：	

2−3　電源を入れる

接続後、本装置の電源をいれると前面のランプが点灯します。



前面ランプの説明

電源供給	:POWER 点灯
出荷状態	:ST1 点灯
設定状態更新	:ST1 消灯
ひかり電話使用可能	:ST2 点灯
ひかり電話使用不可	:ST2 消灯
ＰＰＰ接続確立時	:ST3 点灯
ＰＰＰ接続未確立時	:ST3 消灯
正常に設定済み	:ST4 点灯
設定中	:ST4 点灯
設定失敗	:ST4 点滅(1s)
設定失敗(認証エラー以外)	:ST4 点滅
自動設定サーバへのセッション未確立	:ST4 消灯

背面ランプ表

背面ランプの説明

電源供給	:LAN 及び WAN(右下)点灯
ＷＡＮリンク状態	:WAN（左下）点灯、10M は（右下）消灯
ＬＡＮリンク状態	:LAN（左下）点灯、10M は（右下）消灯
レイヤ確立	:ISDN ランプ（下部）点灯
レイヤ未確立	:ISDN ランプ（下部）消灯

※1. レイヤ 1 の確立（受信）によって ISDN ランプ（背面）が点灯します。NEPRO-02/04b のみ
※2. 本装置は ISDN の網側にあたります。また PBX 側の DSU は必要ございません。

⚠ 本装置は発熱を排気しています。本装置の左右の通風口から
10cm以上空け、空気のこもらない場所に設置して下さい。

⚠ 通話中に電源 OFF、回線の抜き差しを行うと誤動作の原因になる場合があります。
電源を切る場合は、IP 電話を使用していないことを確認してから行ってください。

🚫 他の機器とのスタック置き(縦重)は熱気がこもりますので絶対に行わないでください。

2−4　パソコンを本装置に接続する

初期設定を行う為に、本装置の LAN 側に設定用のパソコンを接続します。

①接続する前に、パソコンの IP アドレスを『192.168.99.XXX』、サブネットマスクを『255.255.255.0』に設定します。
※1. ゲートウェイの初期値アドレスは 192.168.99.100 なのでそれ以外を割り当てます。
※2. パソコンの IP アドレス設定詳細は次ページ以降を参照してください。

②本装置の LAN ポートに設定用パソコンを接続します。（下図参照）

③本装置の電源を ON にします。

④本装置を起動すると『**POWER**』ランプが点灯します。

⑤パソコンが正常に接続されている場合『**LAN(左下)**』ランプが点灯します。
ランプが点灯しても接続が出来ない場合は、アドレスが正しく設定できていない恐れがあります。次ページ以降を参照してアドレス設定を行ってください。

【背面図】

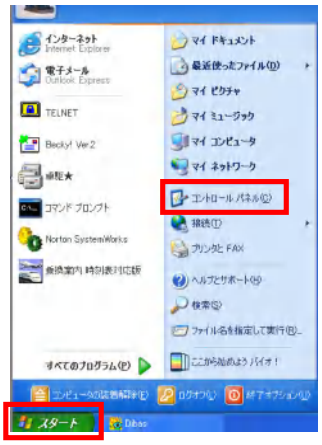
2−5　パソコンの IP アドレスを設定する

本装置にアクセスする為には、パソコンの IP アドレス設定が必要となります。
下記の手順で IP アドレスの自動取得、または固定 IP アドレスを割り当ててください。

Windows XP の場合

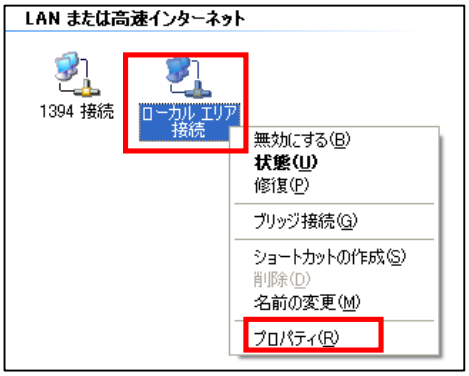
ローカルエリア接続のウインドウを開きます。

①『**スタート**』ボタンをクリックし、
『**コントロールパネル**』をクリックします。



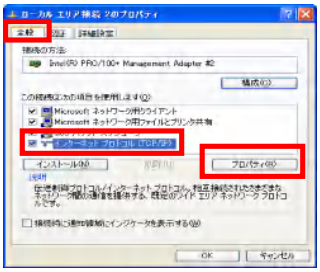
②『**ネットワークとインターネット接続**』を
クリックし、『**ネットワーク接続**』をクリック
します。

③『**ローカルエリア接続**』にカーソルを合わせて
右クリックし表示されるウインドウ内の
『**プロパティ**』をクリックします。



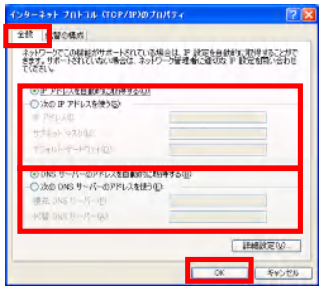
TCP/IP のウインドウを開きます。

④『**全般**』タブから『**インターネットプロトコル
（TCP/IP）**』を選択し『**プロパティ**』をクリックします。



IP アドレスを自動で取得する場合

⑤『**全般**』タブから『**IP アドレスを自動的に取得する**』
と『**DNS サーバのアドレスを自動的に取得する**』を
選択し『**OK**』ボタンをクリックします。

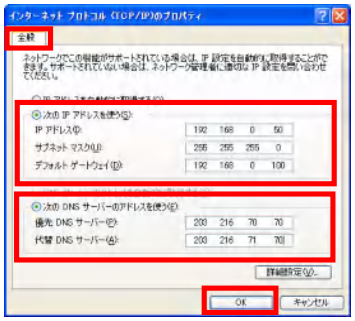


固定 IP アドレスを使用する場合

⑤『**全般**』タブから『**次の IP アドレスを使う**』を
選択し、『**IP アドレス**』、『**サブネットマスク**』、
『**デフォルトゲートウェイ**』を入力します。

⑥『**次の DNS サーバアドレスを使う**』を選択し、
『**優先 DNS サーバ**』、『**代替 DNS サーバ**』にプロバイ
ダの指定 DNS サーバを入力します。

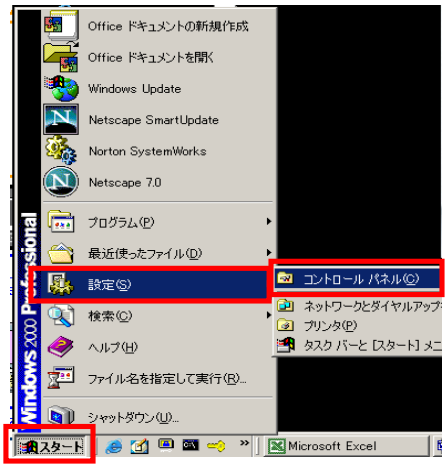
⑦『**OK**』ボタンをクリックします。



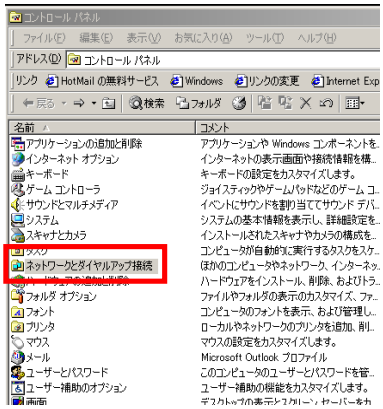
Windows 2000 の場合

ローカルエリア接続のウインドウを開きます。

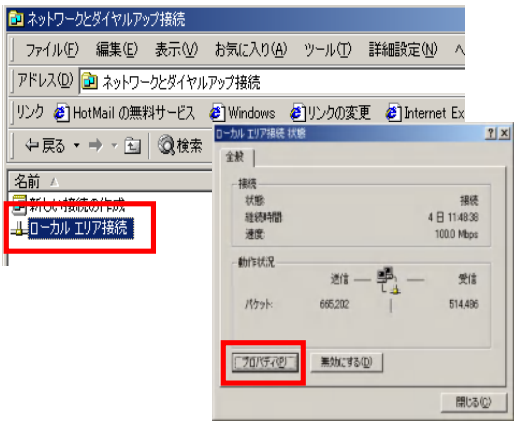
①『**スタート**』ボタンをクリックし、『**設定**』から『**コントロールパネル**』をクリックします。



②『**ネットワークとダイヤルアップ接続**』をダブルクリックします。

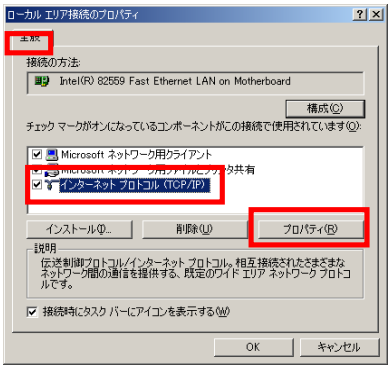


③『**ローカルエリア接続**』をダブルクリックし『**プロパティ**』をクリックします。



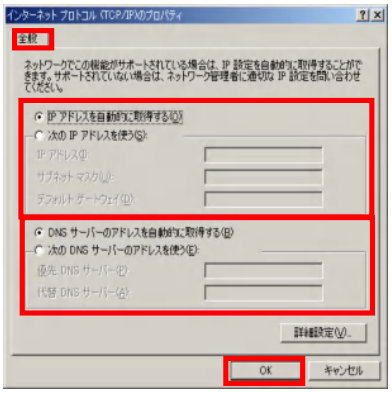
TCP/IP のウインドウを開きます。

④『**全般**』タブから『**インターネットプロトコル(TCP/IP)**』を選択し『**プロパティ**』をクリックします。



IP アドレスを自動で取得する場合

⑤『**全般**』タブから『**IP アドレスを自動的に取得する**』と『**DNS サーバのアドレスを自動的に取得する**』を選択し『**OK**』ボタンをクリックします。

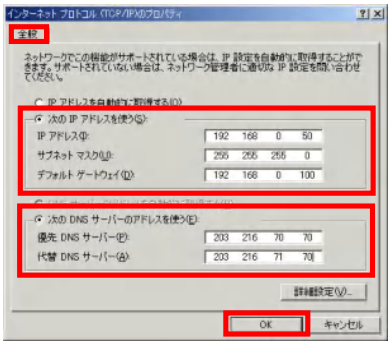


固定 IP アドレスを使用する場合

⑤『**全般**』タブから『**次の IP アドレスを使う**』を選択し、『**IP アドレス**』、『**サブネットマスク**』、『**デフォルトゲートウェイ**』を入力します。

⑥次に『**次の DNS サーバアドレスを使う**』を選択し、『**優先 DNS サーバ**』、『**代替 DNS サーバ**』にプロバイダの指定 DNS サーバを入力します。

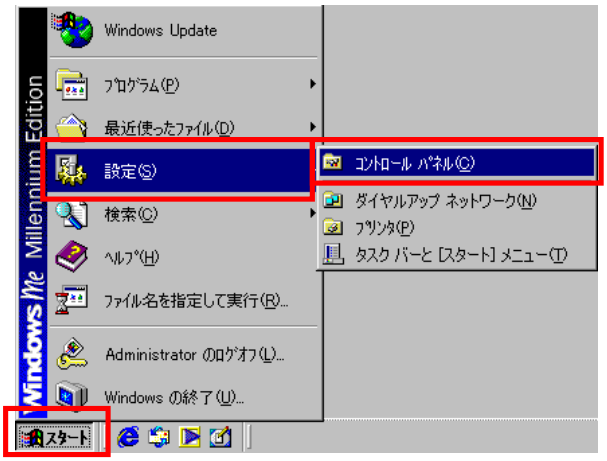
⑦『**OK**』ボタンをクリックします。



Windows 95/98/Me の場合

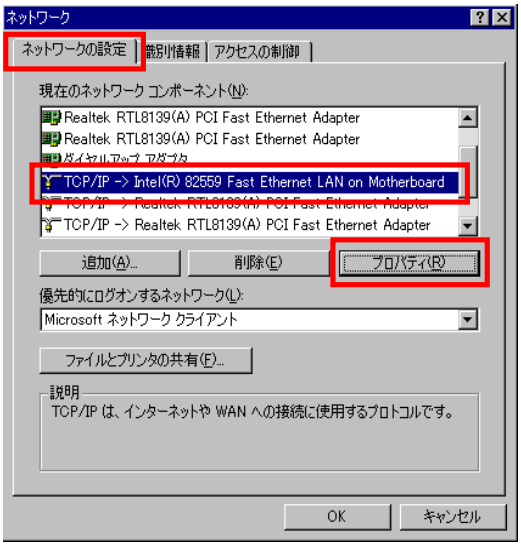
ローカルエリア接続のウインドウを開きます。

①『**スタート**』ボタンをクリックし、『**設定**』から『**コントロールパネル**』をクリックします。



②『**ネットワーク**』をダブルクリックします。

③『**ネットワークの設定**』タブから『**TCP/IP->Ethernet アダプタ名**』を選択し『**プロパティ**』をクリックします。
※Ethernet アダプタ名はパソコンによって異なります。



IP アドレスを自動で取得する場合

④『**IP アドレス**』タブから『**IP アドレスを自動的に取得する**』を選択します。

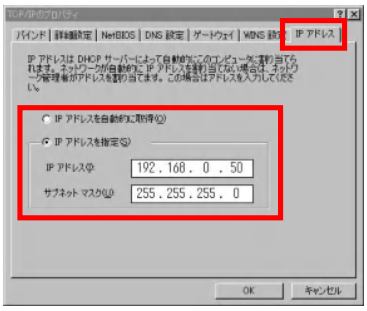
⑤『**ゲートウェイ**』タブには何も設定を入れません。

⑥『**DNS 設定**』タブで『**DNS を使わない**』にチェックをいれます。

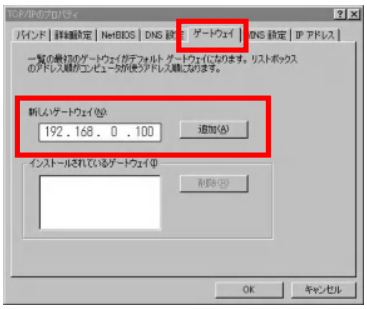
⑦『**OK**』を選択して、パソコンを再起動します。

固定 IP アドレスを使用する場合

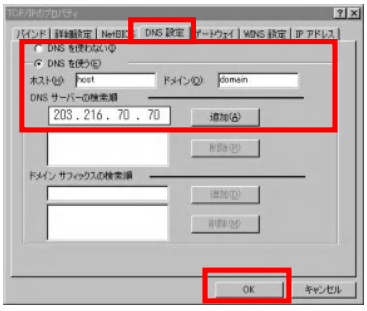
④『**IP アドレス**』タブから『**IP アドレスを指定**』を選択し『**IP アドレス**』、『**サブネットマスク**』に値を入力します。



⑤『**ゲートウェイ**』タブの『**新しいゲートウェイ**』に本装置の LAN 側 IP アドレスを入力し『**追加**』をクリックします。



⑥『**DNS 設定**』タブから『**DNS を使う**』を選択し、『**ホスト**』、『**ドメイン**』、を入力し、『**DNS サーバ**』にプロバイダの指定 DNS サーバを入力します。



⑦『**OK**』を選択して、パソコンを再起動します。

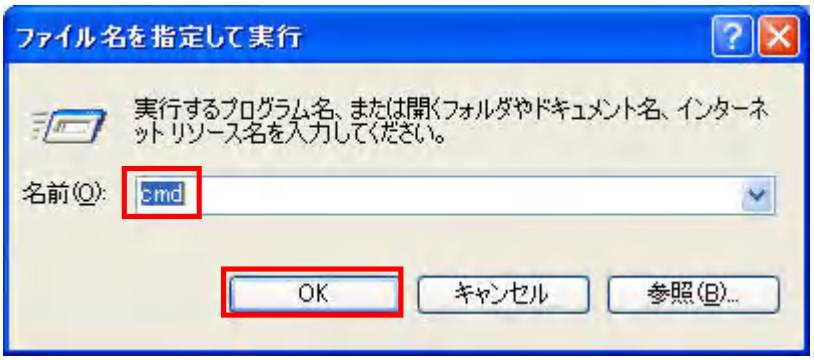
2−6　パソコンの IP アドレスを確認する

自動取得した IP アドレスや、指定した IP アドレスの確認を行います。

Windows　2000/XP の場合

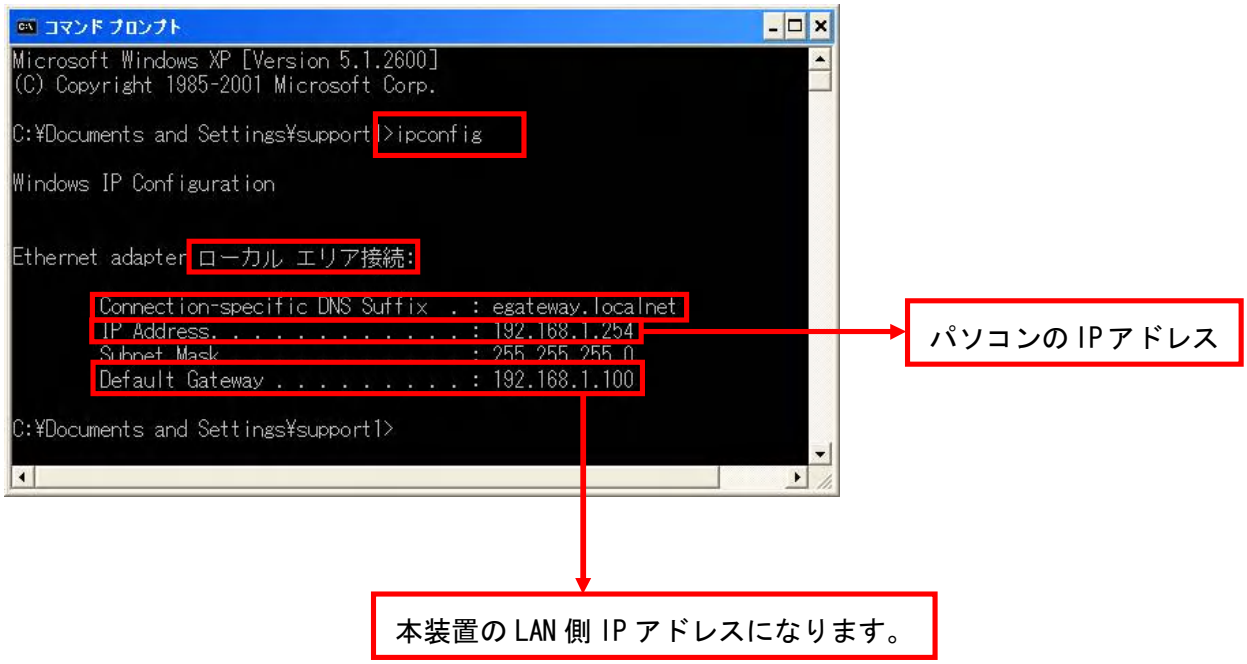
①『**スタート**』から『**ファイル名を指定して実行**』を選択します。

②『**cmd**』と入力し、『**OK**』をクリックします。



③『**ipconfig**』と入力します。

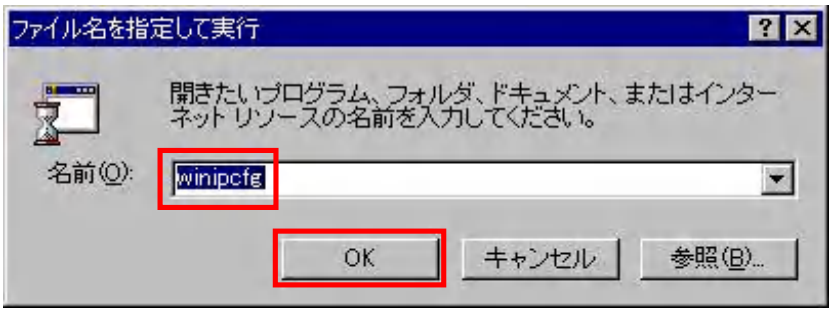
④『**ローカルエリア接続**』に IP アドレスが正しく表示されていることをご確認ください。
本装置から IP アドレスを自動で取得した場合、『**Connection-specific DNS Suffix**』に『**gateway.localnet**』が表示されます。


コマンド プロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.
C:¥Documents and Settings¥support1>ipconfig
Windows IP Configuration
Ethernet adapter ローカル エリア接続:
Connection-specific DNS Suffix . : egateway.localnet
IP Address. . . . . : 192.168.1.254
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . : 192.168.1.100
C:¥Documents and Settings¥support1>
パソコンの IP アドレス
本装置の LAN 側 IP アドレスになります。

Windows　95/98/Me の場合

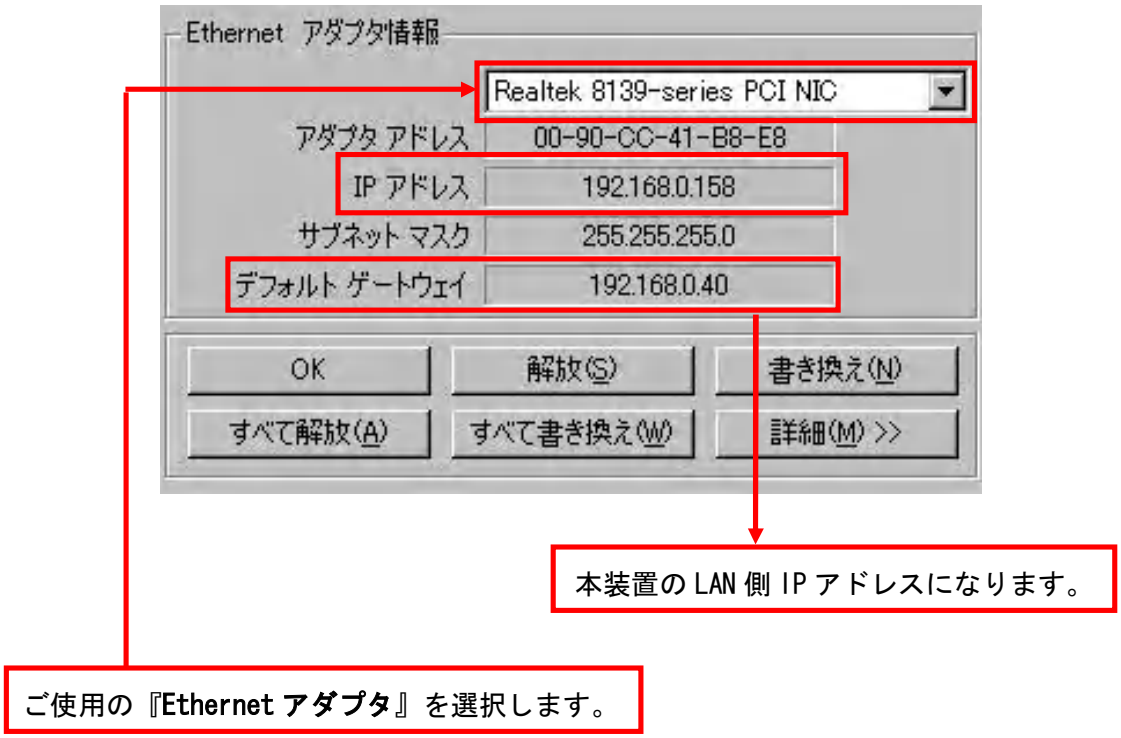
①『**スタート**』から『**ファイル名を指定して実行**』を選択します。

②『**winipcfg**』と入力し、『**OK**』をクリックします。



③ご使用の『**Ethernet アダプタ**』を選択します。

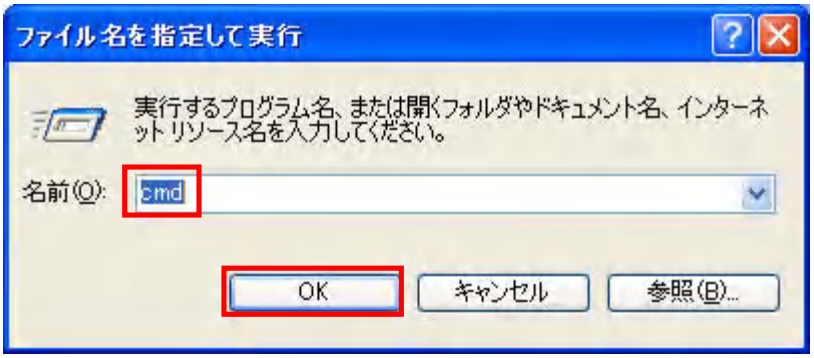
④『**IP アドレス**』が正しく表示されていることをご確認ください。



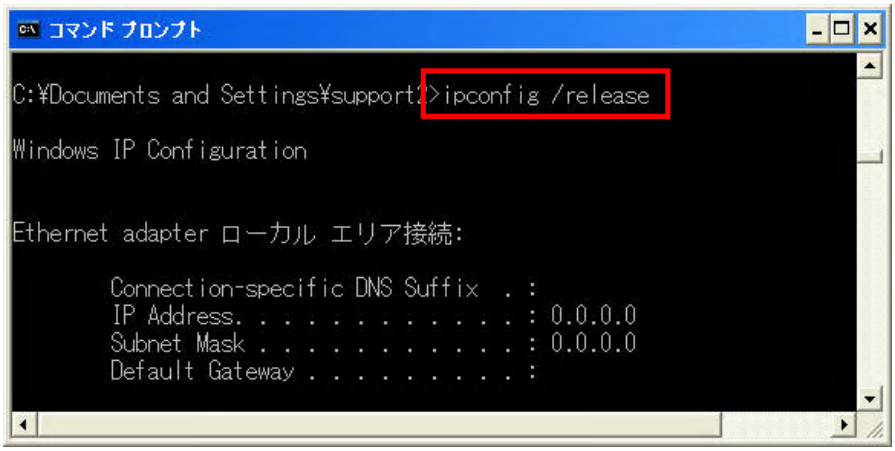
2−7　パソコンの IP アドレスを再取得する

Windows　2000/XP の場合

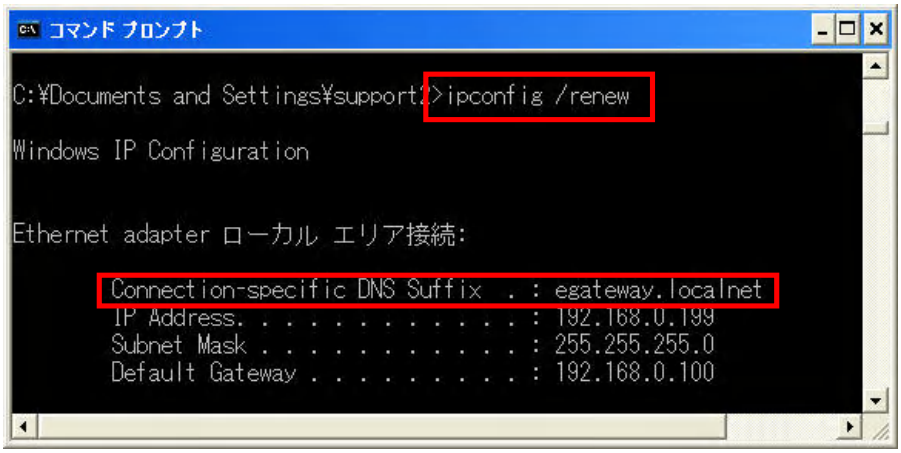
①『**スタート**』から『**ファイル名を指定して実行**』を選択します。
②『**cmd**』と入力し、『**OK**』をクリックします。



③『**ipconfig　/release**』と入力します。
IP アドレスを開放します。

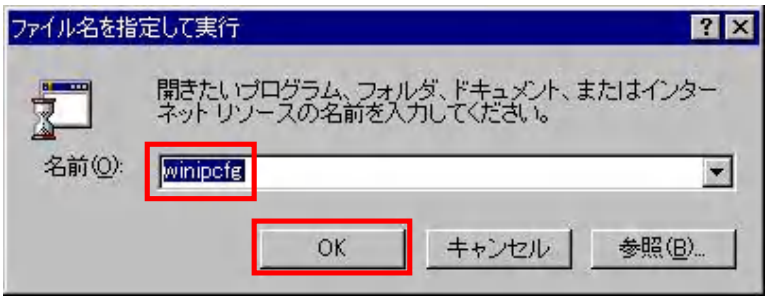

コマンド プロンプト
C:¥Documents and Settings¥support1>ipconfig /release
Windows IP Configuration
Ethernet adapter ローカル エリア接続:
Connection-specific DNS Suffix . :
IP Address. . . . . : 0.0.0.0
Subnet Mask . . . . . : 0.0.0.0
Default Gateway . . . . . :

④『**ipconfig　/renew**』と入力します。
IP アドレスを再取得します。
IP アドレスを取得すると『**Connection-specific DNS Suffix**』に『**gateway.localnet**』が表示されます。

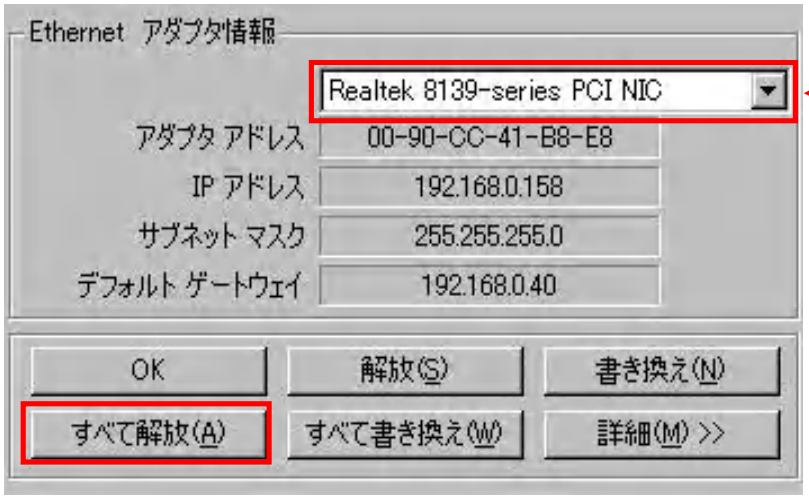

コマンド プロンプト
C:¥Documents and Settings¥support1>ipconfig /renew
Windows IP Configuration
Ethernet adapter ローカル エリア接続:
Connection-specific DNS Suffix . : egateway.localnet
IP Address. . . . . : 192.168.0.199
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . : 192.168.0.100

Windows　95/98/Me の場合

①『**スタート**』から『**ファイル名を指定して実行**』を選択します。
②『**winipcfg**』と入力し、『**OK**』をクリックします。



③ご使用の『**Ethernet アダプタ**』を選択します。
④『**すべて開放**』をクリックします。



⑤パソコンを再起動します。

ご使用の『**Ethernet アダプタ**』を選択します。

2−8　設定画面について

ＷＥＢブラウザにて設定を行います。
メニュー画面のＵＲＬは「http://192.168.99.100/adm/」です。

１．WEB ブラウザから設定画面のトップページにアクセスします。

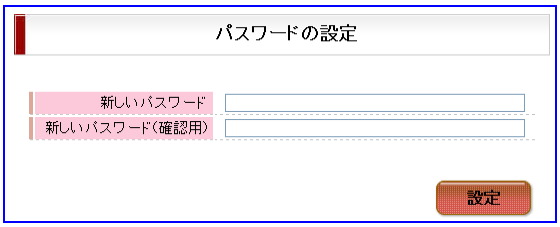
※WEB ブラウザは InternetExplorer5.0 以上をご使用ください。
　また、Netscape などの Internet Explorer 以外の WEB ブラウザを使用した場合、正常に表示できない場合があります。

２．出荷初期時にてパスワードの設定画面が表示されますので、管理者用パスワードを設定します。
　　パスワードについては半角英数字（8 文字）となり、スペース及び空欄は不可となります。

３．パスワード設定後に認証画面が立ち上がります。ユーザ名に『admin』、パスワードに設定したパスワードを入力し、『OK』ボタンを押します

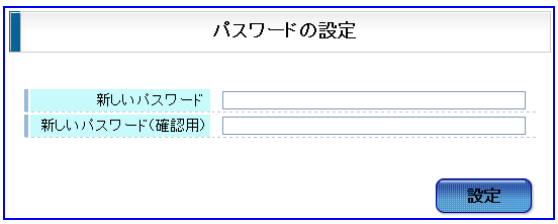
NTT 西日本管内向けファームウェア

■NTT 西日本用

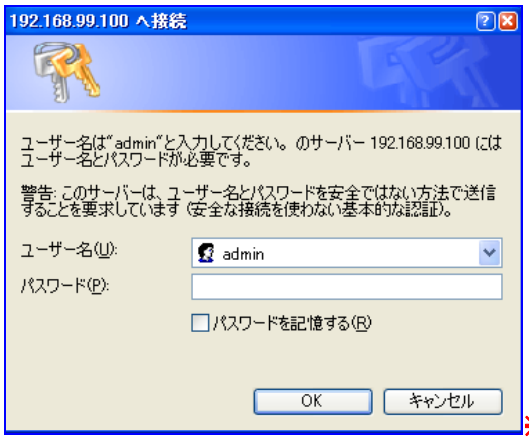


NTT 東日本管内向けファームウェア NTT

■NTT 東日本用



ユーザ名　：admin
パスワード：任意 8 文字



※万一パスワードを忘れてしまった場合

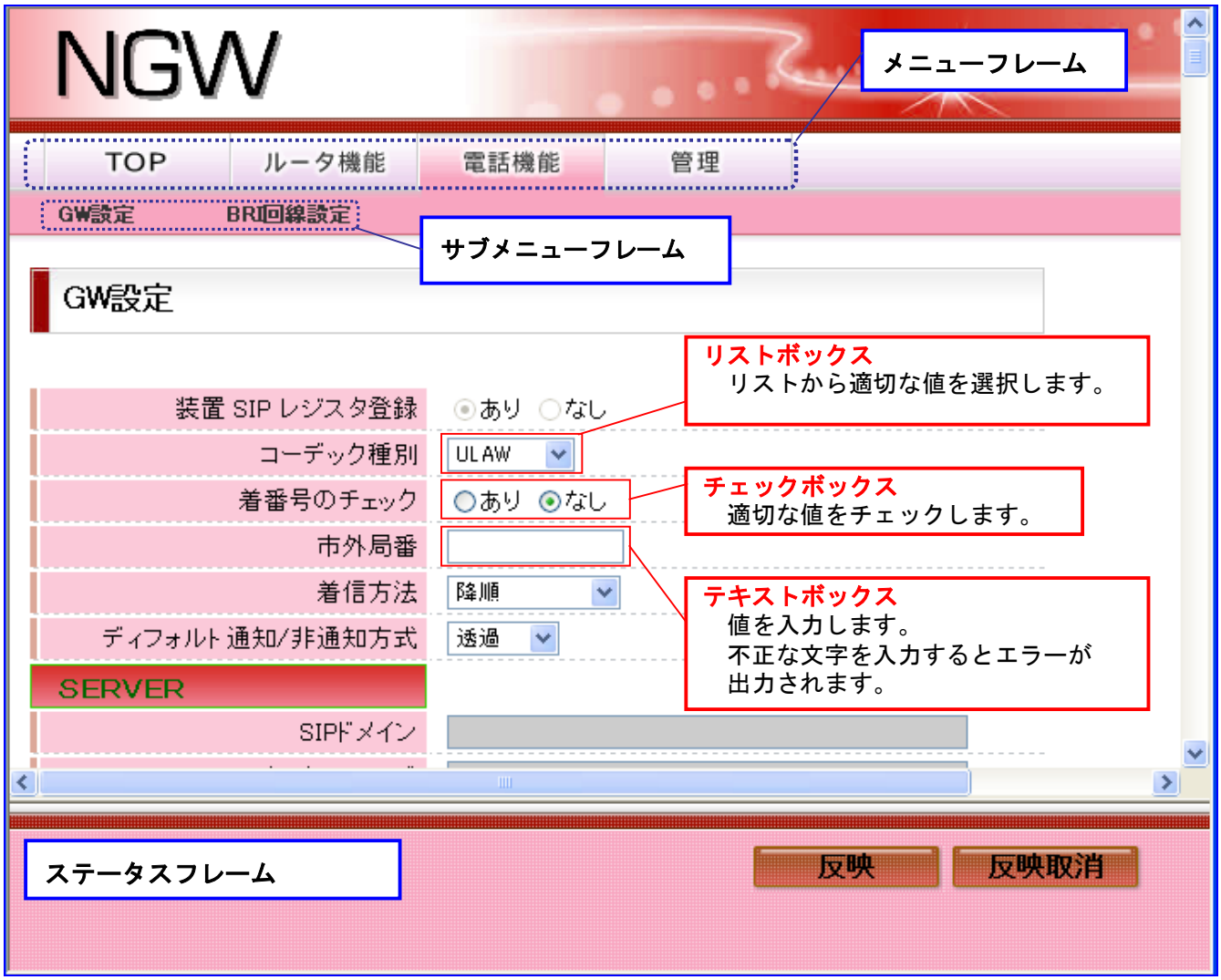
管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、NGW の初期化を行う必要があります。
このとき NGW のすべての設定が消えてしまうので、パスワードの管理は十分注意してください

⚠ 通話中の設定変更、電源 OFF、回線の抜き差しは行なうと誤動作の原因になる場合があります。
設定変更等を行なう場合は IP 電話を使用していないことを確認してから行ってください。

設定画面の説明

ＷＥＢブラウザの認証が終了すると設定画面が表示されます。
画面上部がメニューフレーム、画面中部が設定フレーム、画面下部がステータスフレームです。

■画面共通（NTT 東日本管内：青、NTT 西日本管内：赤）



※１．画面が表示されない場合はセキュリティソフトのセキュリティレベルを下げるなどを行ってください。
※２．設定画面は JavaScript を利用していますのでブラウザの設定で JavaScript が利用できる事を
　　ご確認ください。
※３．WEB ブラウザは InternetExplorer5.0 以上で動作します。
　　また、Netscape などの Internet Explorer 以外の WEB ブラウザを使用した場合、正常に設定
　　できない場合がありますのでご注意ください。

設定メニュー

NEPRO-04/08a、NEPRO-02/04b の設定については TOP、ルータ機能、電話機能、管理に分けることができます。それぞれの機能はメニューフレームから選択することで設定、情報表示されます。
また、サブメニューフレームをクリックすることでも設定、情報表示されます。

ＴＯＰ
設定の一覧を表示します。

ルータ機能
WAN、LAN ポート及びルータ機能の設定を行います。

■サブメニュー
- 設定一覧
- 簡単 WAN 設定

■サブメニュー
- WAN 設定
- LAN 設定
- セキュリティ設定
- ネットワーク設定

電話機能
発信方式、発信番号、代表番号組、番号編集等の設定を行います。

管理
設定のバックアップ、ファームウェアの更新、各種ログの取得等などの管理・設定を行います。

■サブメニュー
- GW 設定
- BRI 回線設定※1
- アナログ回線設定※2

■サブメニュー
- ルータ情報
- システム管理

※1 は BRI のみ表示
※2 は FXS のみ表示

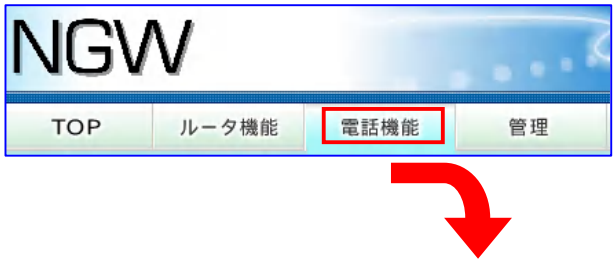
3章　IP 電話の設定

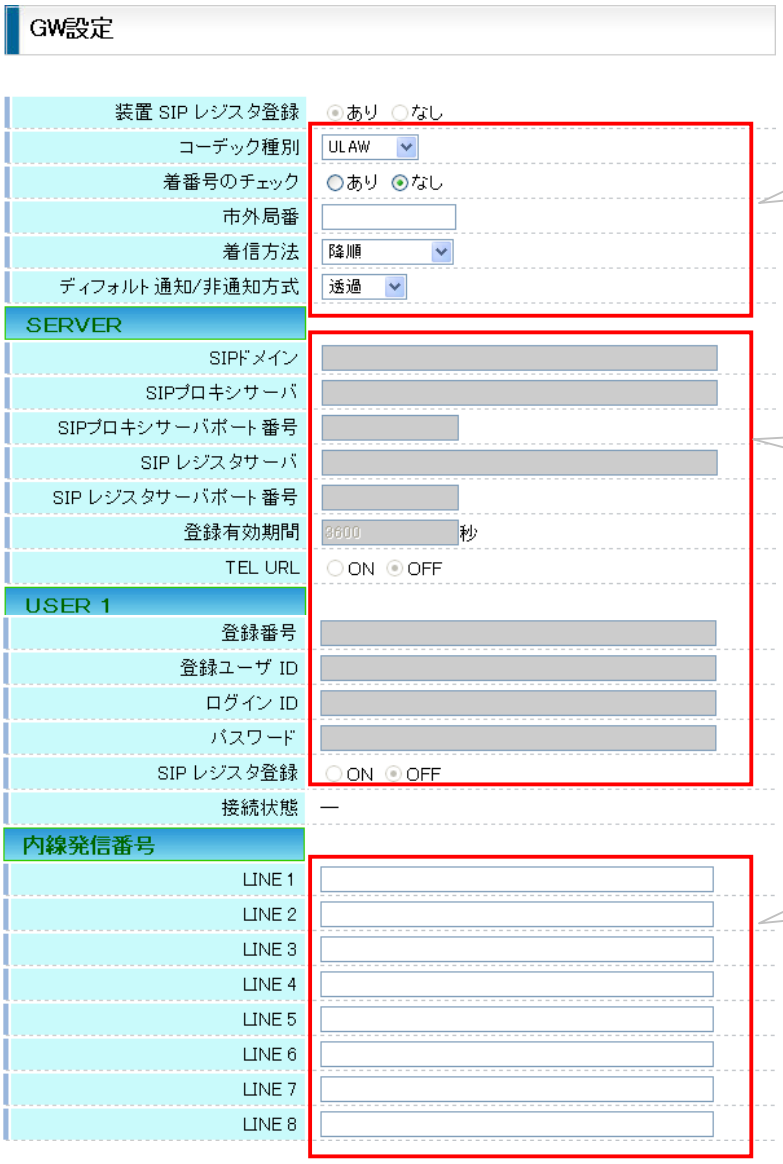
この章では IP 電話の設定を解説します。

3−1　装置共通設定を行なう

本装置全体における着信方式、発信番号等の設定を行ないます。

本装置のメニューは『ＴＯＰ画面』⇒『電話機能』から行います。



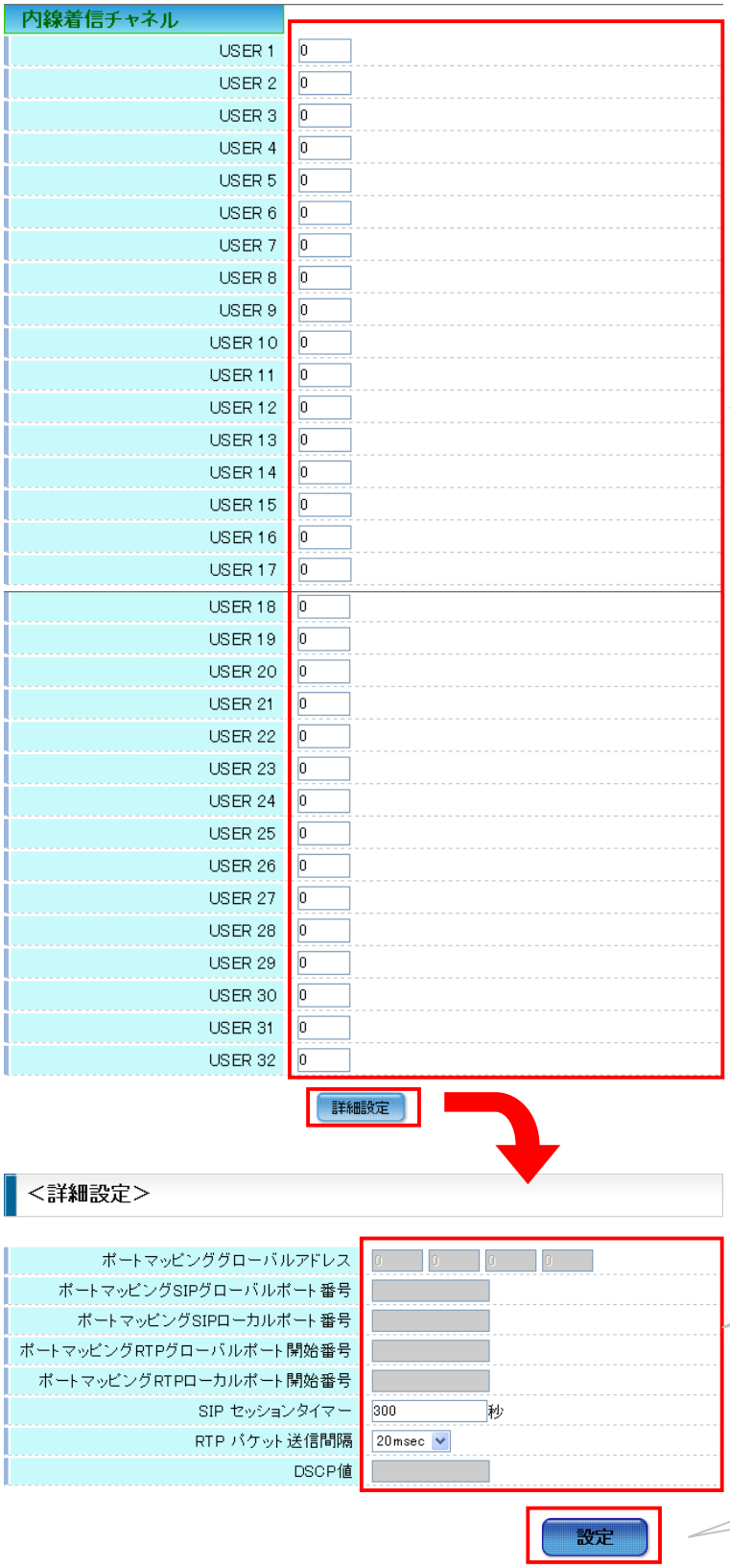


基本設定部分
コーデック種別は変更の必要は不要です。
その他、発信時及び着信時の動作を設定します。

灰色部分
自動設定サーバへのアクセスにより取得反映される部分になります。

内線発信番号
発信番号を設定します。設定については
ｃｈ毎の設定が可能です。

画面上の『詳細設定』を押下すると詳細画面が表示されます。



内線着信チャネル
レジスタ登録された番号毎に対して着信した際のｃｈを設定します。

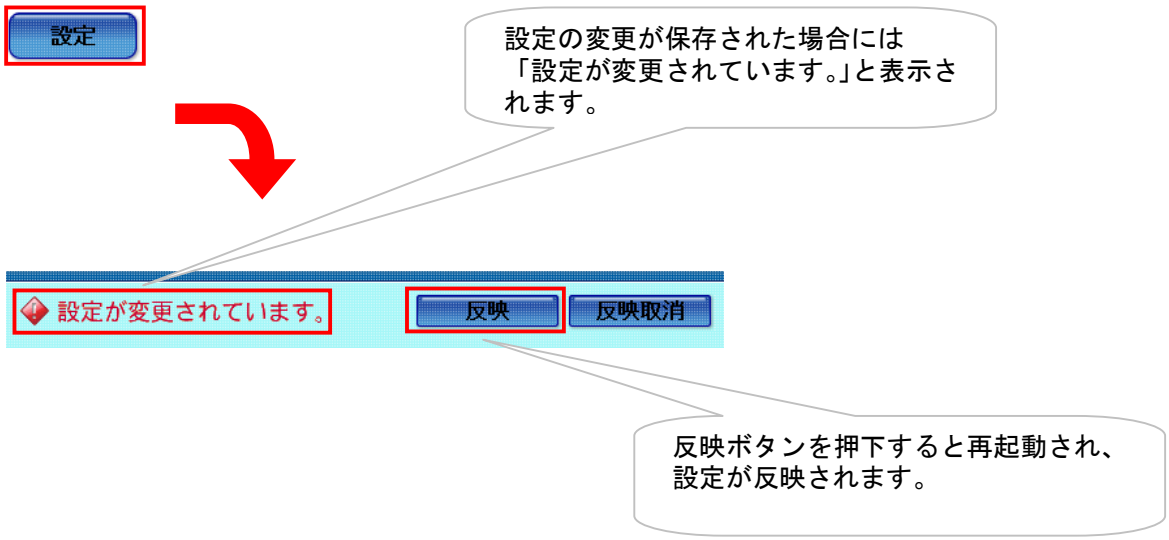
０：空きｃｈへの着信
１～８：該当ｃｈへの着信

詳細設定
セッションタイマー、パケット送出間隔を設定します。

設定ボタンを押すと設定が保存されます。

設定を保存・反映する

必要な項目を設定して『設定』ボタンを押すと設定が保存されます。
実際に設定を反映する場合はステータスメニューの反映ボタンを押すと機器の再起動とともに反映がされます。



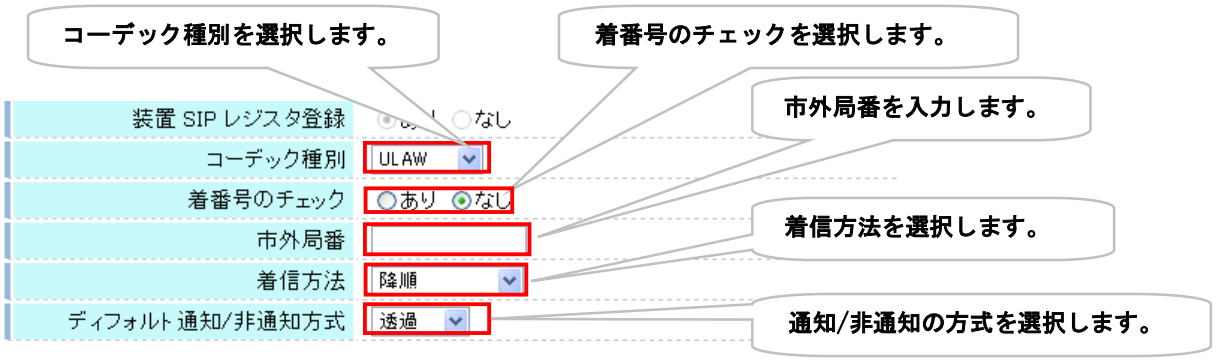
※基本設定画面の詳細項目は 3-2 項以降をご参照ください。

3−2　電話機能設定を行う

本装置の発着方法及び発信番号、着信方法の設定を行ないます。

１．基本設定

本装置の基本利用設定をおこないます。
コーデック種別、着番号チェック、市外局番、着信方法、ディフォルト通知/非通知の方式を選択します。
設定変更後については反映ボタンを押下し再起動することで反映されます。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
コーデック種別	音声圧縮コーデック方式の指定をします。 ※ひかり電話オフィスタイプでは通常 ULAW としています。ULAW 以外のコーデックについては、順次対応する予定です。	G723_63 G723_53 G729 ULAW ALAW	ULAW
着番号のチェック	レジスタ登録されている番号以外の着信があった場合に着信するかしないかのチェックを選択します。	あり なし	なし
市外局番	市外局番を指定します。	半角数字、「＃，＊」最大 6 文字。空白可。	空白
着信方法	着信時の着信方式を選択します。 昇順：1→8、降順：8→1 ラウンドロビン：1→2～→8	昇順 降順 ラウンドロビン	降順
ディフォルト通知/非通知方式	発信時、相手先に IP 電話番号の通知「する／しない」を指定します。 透過：PBX/主装置の自局番号に依存します。 通知：相手番号に「186」を付加します。 非通知：相手番号に「184」を付加します。	透過 通知 非通知	透過

２．内線発信番号・内線着信チャネル

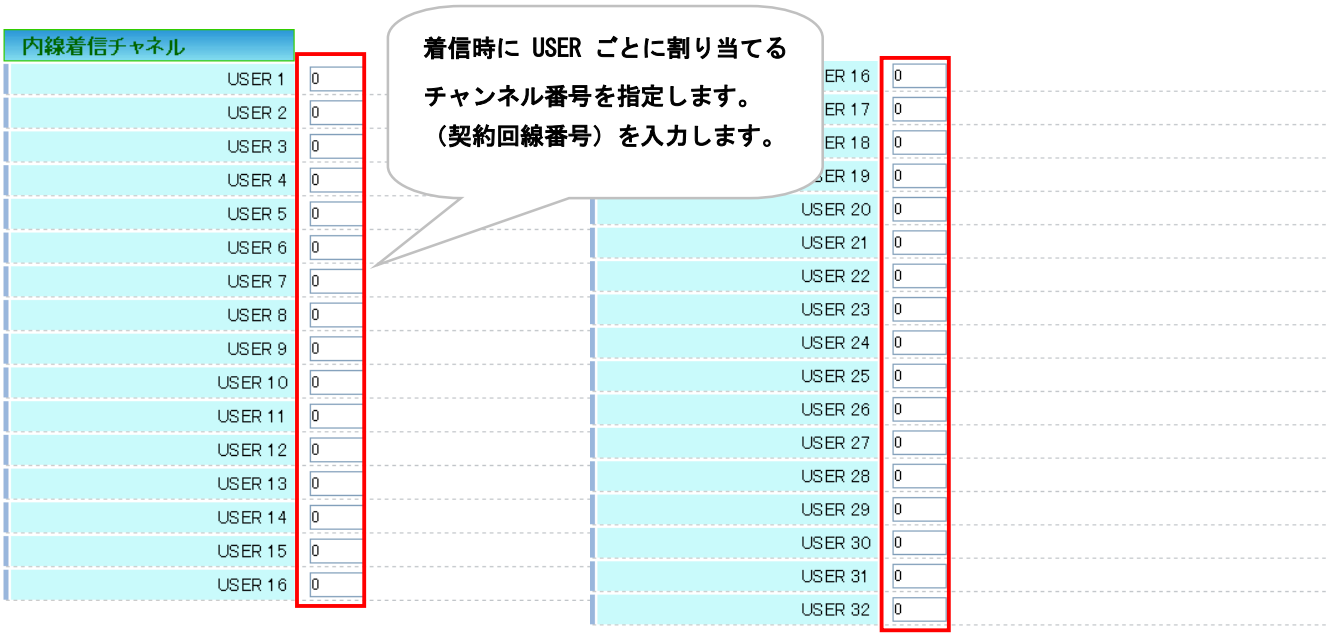
発信する際の自局番号（契約回線番号）を設定します。

ひかり電話への申し込み番号以外の番号については網側より拒否されます。

※ BRI については主装置/PBX 側から自局番号の送信がある場合は、主装置/PBX 側の番号を送出します。
番号の送出がない場合には GW 側登録の番号を送出します。

※ アナログの場合は必須入力項目となります。

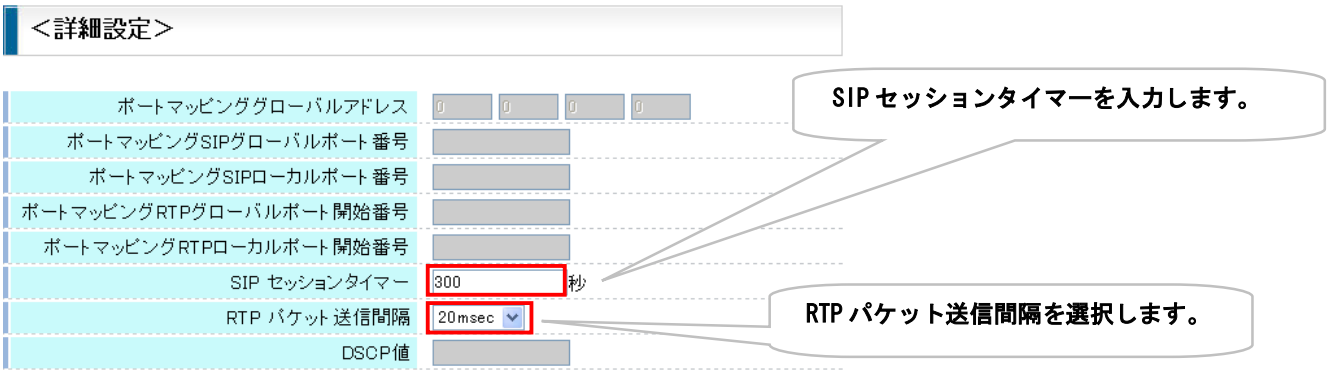
内容項目	説明	設定範囲	初期値
LINE n	発信時に各 LINE１ ～ LINE8 での発番号を設定します。 04a 及び 02b タイプの場合 LINE1 ～ LINE4 に設定可能 08a 及び 04b タイプの場合 LINE1 ～ LINE8 に設定可能	半角数字、「＃，＊」 最大 32 文字。 空白可。	空白



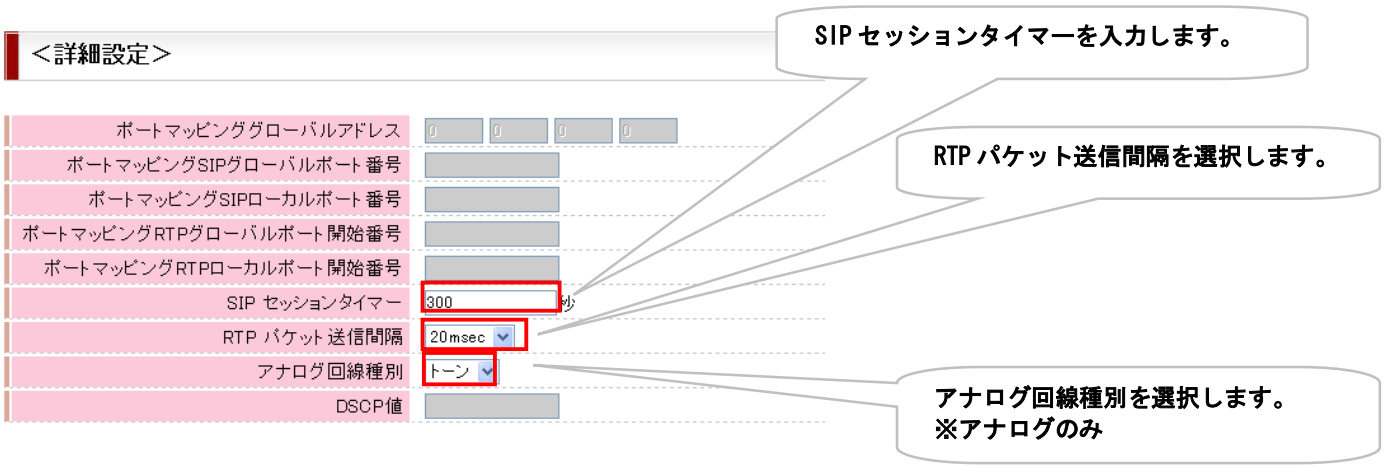
内容項目	説明	設定範囲	初期値
USER n	USER 登録番号に対する着信 ch 番号を入力します。 0：空きチャネル n: n ch 目 同一のチャネル番号を複数使用する事は出来ません。(0 を除く)	半角数字 0～8（ch 番号）	0

詳細設定画面の内容になります。

【BRI 画面】



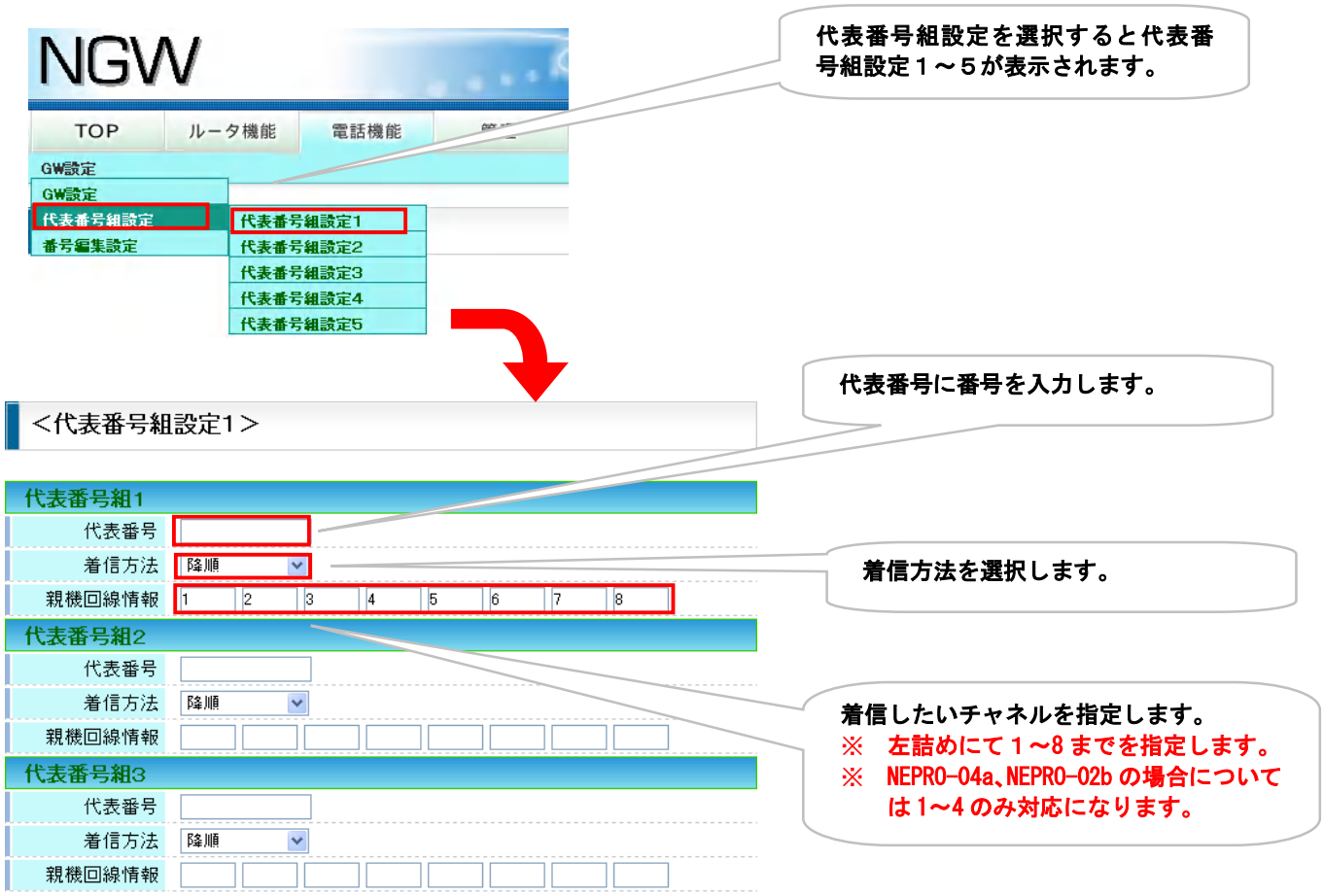
【FXS 画面】



内容項目	説明	設定範囲	初期値
SIP セッションタイマー	SIP セッションの更新間隔時間を設定します。 90 秒未満のもしくは 3000 秒を超える値を設定した場合には 300 秒として処理します。	半角英数字 最大 4 文字 空白可	300（秒）
RTP パケット送信間隔	RTP パケットの送信間隔を選択します。	20ms 30ms	20（ms）
アナログ回線種別	アナログ回線種別を指定します。 ※NEPRO-04/08a のみ表示されます。	トーン 10pps 20pps	トーン

３．着信ポートの設定（代表番号組設定）

着信番号（自局番号）に対して複数のｃｈまたはポートを指定するかを決定します。
設定画面は 20 エントリずつ、5 画面に分けて最大 100 個の番号を入力する事ができます。
設定についてはサブメニュー『GW 設定』⇒『代表番号組設定』⇒『代表番号組設定ｎ』を選択します。
※入力した番号については文字列が多い番号にて前方から一致したものが優先されます。

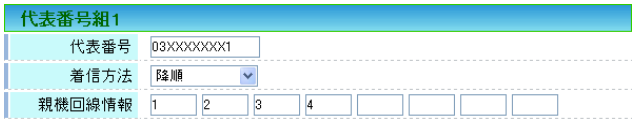


内容項目	説明	設定範囲	初期値
代表番号	ひかり電話への申し込み番号（自局番号）を入力します。	半角数字記号 （記号は“＃”、“＊”のみ） 最大 15 文字 空白可	空白
着信方法	着信時の着信方法を選択します。 昇順：1→8　降順：8→1 ラウンドロビン：1→2～→8	昇順 降順 ラウンドロビン	降順
親機回線情報	入力した代表番号に対して、着信したい ch を昇順で左から入力します。	半角英数字 最大 1 文字 （1～8） 空白可	1～8（1 のみ） 空白

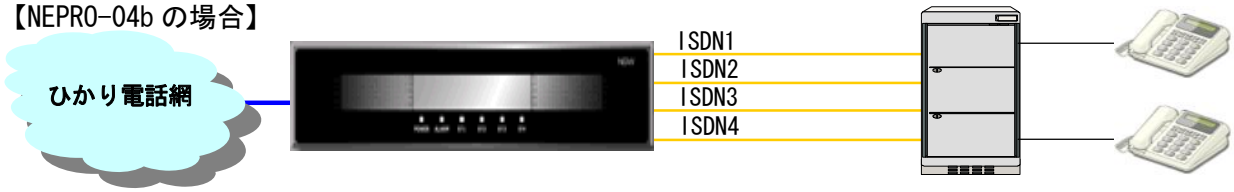
※親機回線情報については NEPRO-04a、NEPRO-02b については 5～8 を削除して下さい。

● 着信例①

代表番号に「03XXXXXX1」を入力、着信方法「降順」、親機回線情報を「1」「2」「3」「4」にした場合



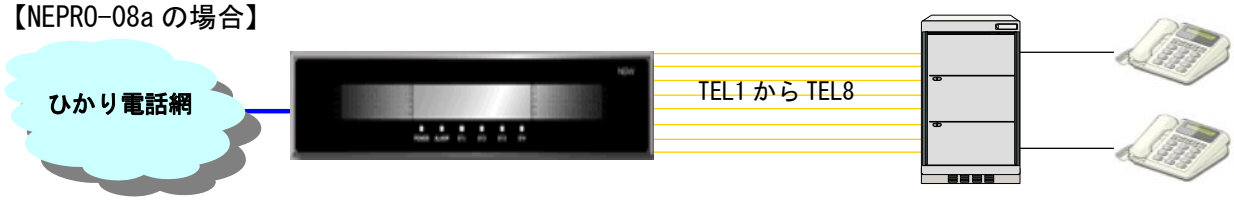
【NEPRO-04b の場合】



03XXXXXXX1 への着信は ISDN2 ポート（4ch 目）からの着信となります。

03XXXXXXX1 以外については電話機能の着信方式に従います。

【NEPRO-08a の場合】



03XXXXXXX1 への着信は TEL4 ポート（4ch 目）からの着信となります。

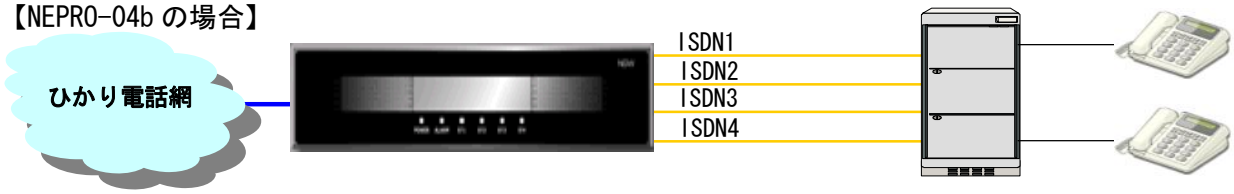
03XXXXXXX1 以外については電話機能の着信方式に従います。

● 着信例②

代表番号 1 に「03XXXXXX01」を入力、着信方法「降順」、親機回線情報を「5」「6」「7」「8」にした場合

代表番号 2 に「03XXXXXX0」を入力、着信方法「降順」、親機回線情報を「5」「6」にした場合

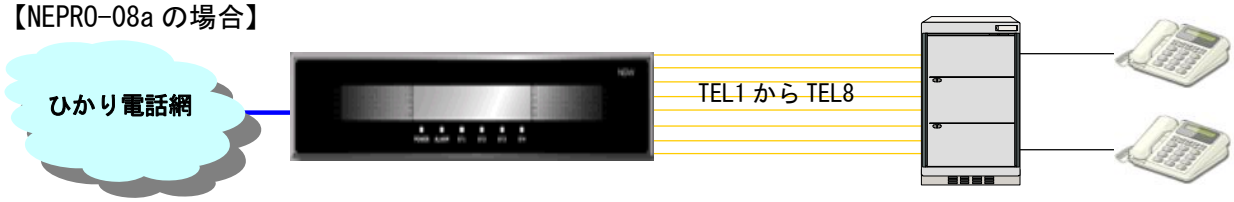
【NEPRO-04b の場合】



03XXXXXX01 への着信は ISDN4 ポート（8ch 目）からの着信となります。

03XXXXXX0　への着信は ISDN3 ポート（6ch 目）からの着信となります。（03XXXXXXX00, 02-09 が該当）

【NEPRO-08a の場合】

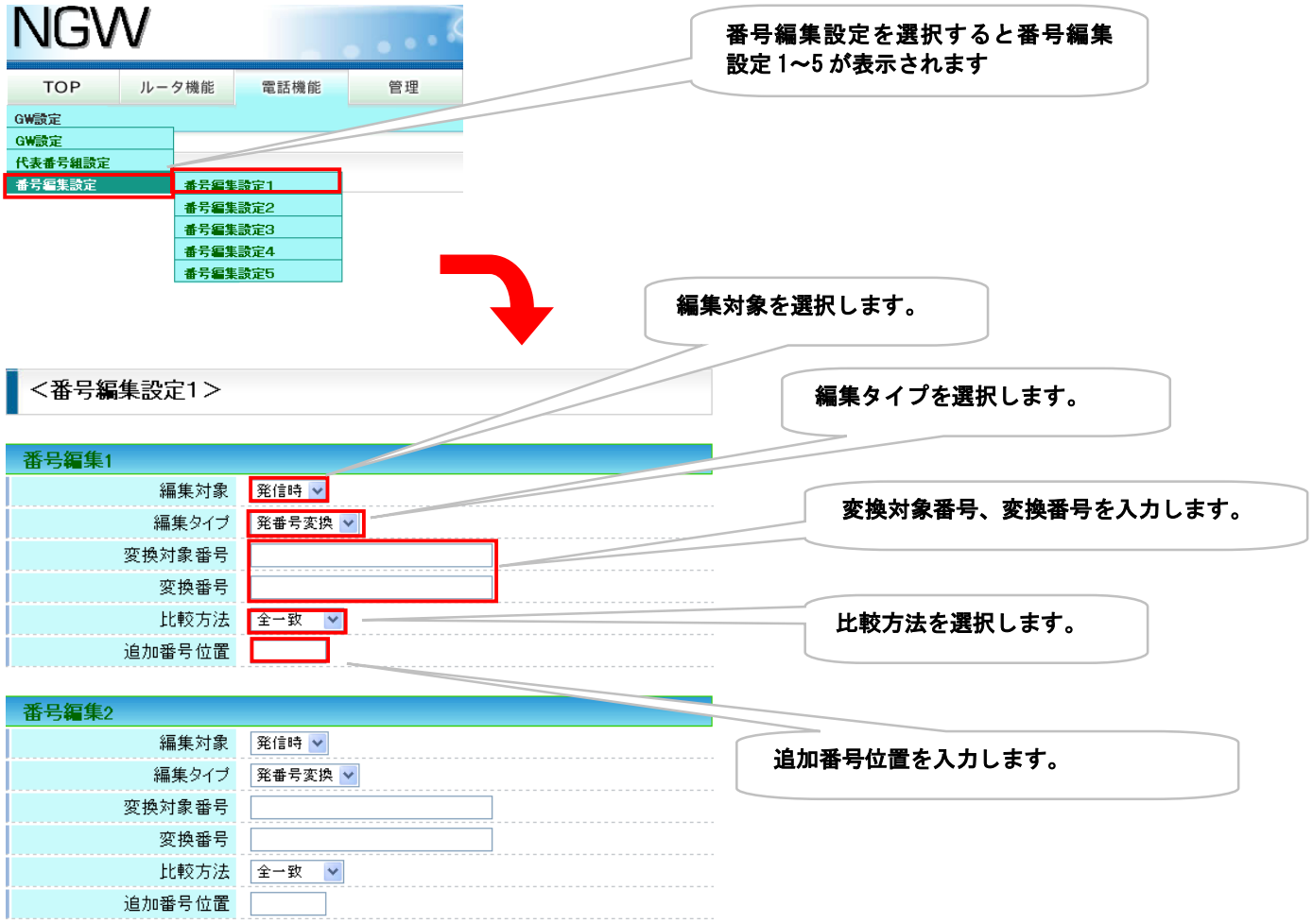


03XXXXXX01 への着信は TEL8 ポート（8ch 目）からの着信となります。

03XXXXXX0　への着信は TEL6 ポート（6ch 目）からの着信となります。（03XXXXXXX00, 02-09 が該当）

４．番号編集機能

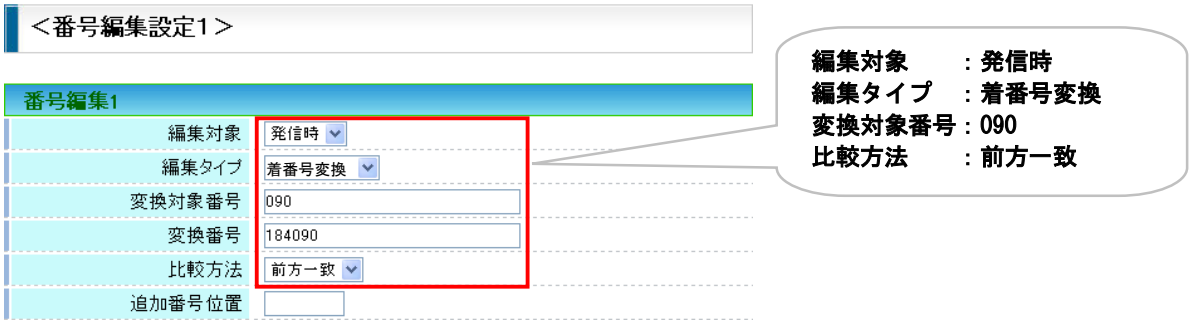
発信時及び着信時の番号編集を行います。
設定画面は 40 エントリずつ、5 画面に分けて最大 200 ルールの編集をする事ができます。
設定についてはサブメニュー『GW 設定』⇒『番号編集設定』⇒『番号編集設定ｎ』を選択します。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
編集対象	発信時、着信時の編集対象を選択します。	発信時 着信時	発信時
編集タイプ	発番号及び着番号の変換・追加・削除を選択します。	発・着番号変換 発・着番号追加 発・着番号削除	発番号変換
変換対象番号	変換対象となる番号を入力します。	半角数字 最大 20 文字 空白可	空白
変換番号	変換後の番号を入力します。	半角数字 最大 20 文字 空白可	空白
比較方法	変換対象番号に対しての比較方法を選択します。	全一致 部分一致 前方一致	全一致
追加番号位置	番号削除をした場合に、変換対象番号に対しての追加番号の位置を指定します。 0:先頭　ｎ:先頭よりｎ番目	半角数字 最大 2 文字 空白可	空白

● 番号編集例①

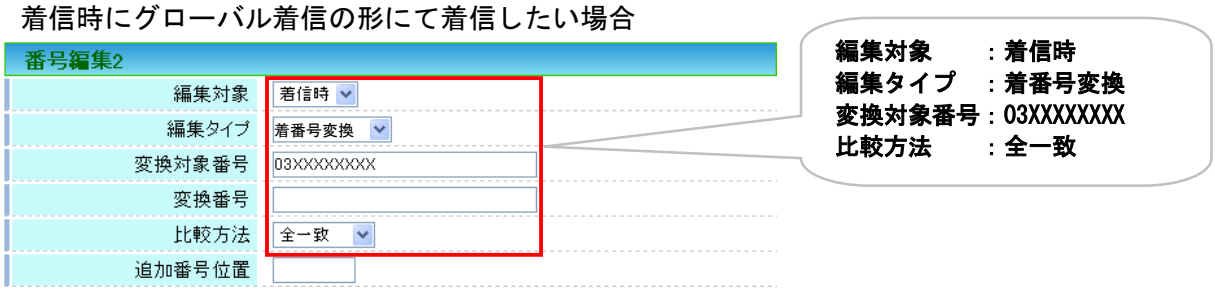
発信時に携帯電話等に対して 184 を付加して発信したい場合



発信する場合に「090XXXXXXXX」をダイヤルした場合に GW にて「184090XXXXXXXX」の形にて発信します。

● 番号編集例②

着信時にグローバル着信の形にて着信したい場合



着信した場合に「03XXXXXXXX（自局番号）」を GW にて削除して主装置/PBX 側へ着信させます。

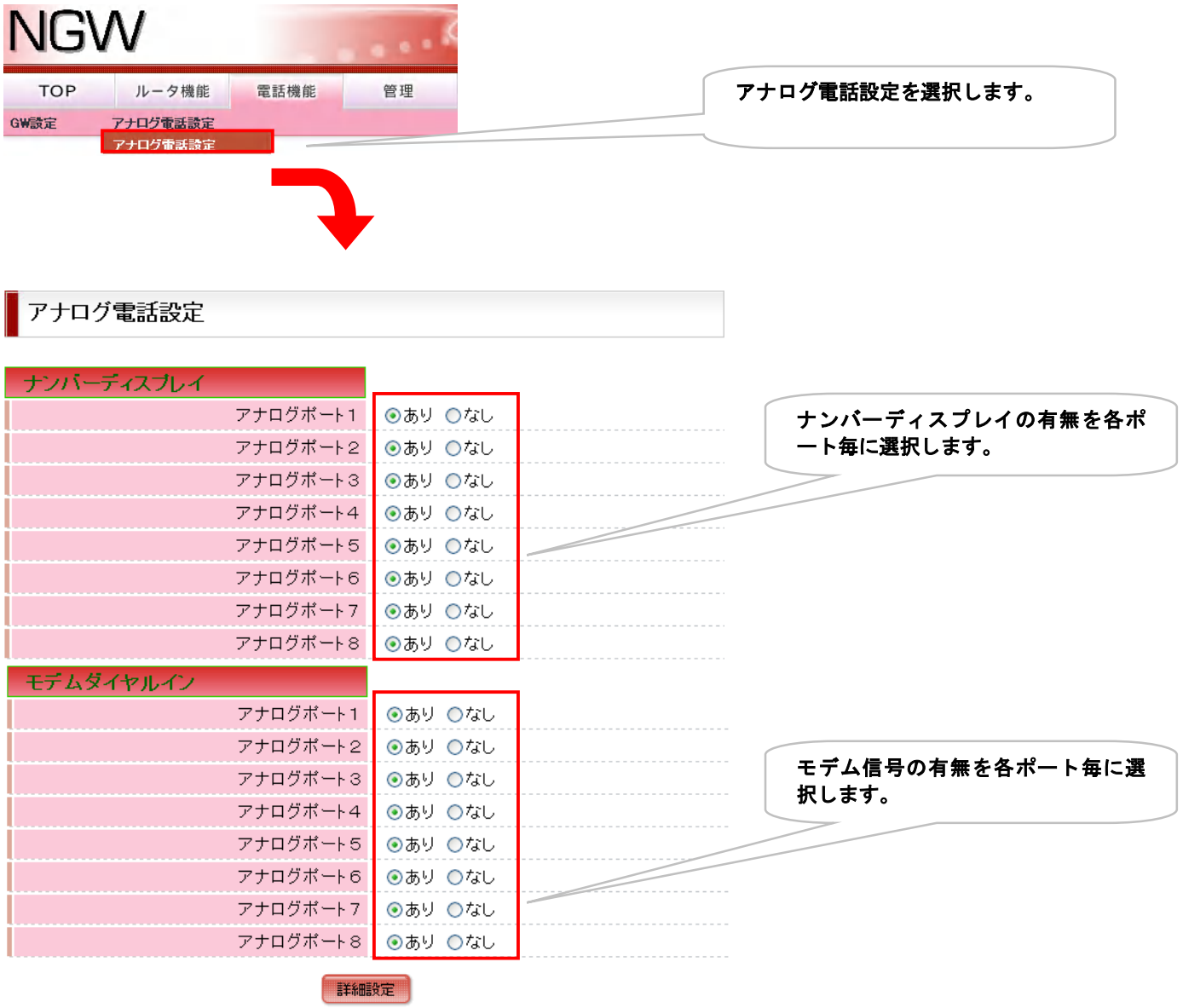
編集対象、編集タイプの組み合わせにより、対象となる番号が相手番号（ダイヤルした番号）、自局番号（ひかり電話契約番号）と変わります。

編集対象	編集タイプ	
	発番号変換・追加・削除	着番号変換・追加・削除
発信時	自局番号（契約番号）	相手番号
着信時	相手番号	自局番号（契約番号）

５．回線設定（アナログ・BRI）

アナログの回線設定を行います。
設定についてはサブメニュー『アナログ電話設定』（NEPRO-04/08a）を選択します。

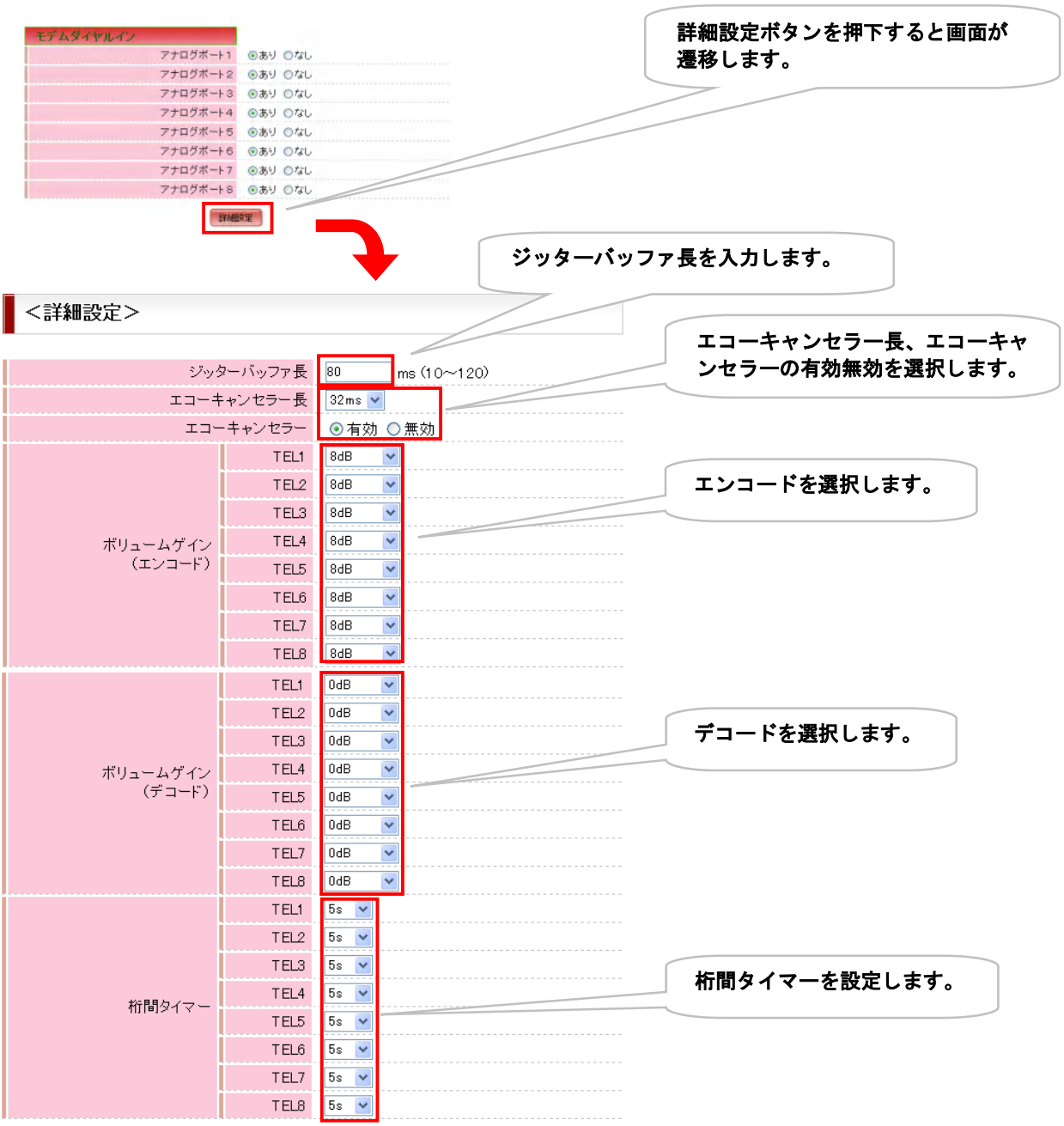
【NEPRO-04/08a のみ】



内容項目	説明	設定範囲	初期値
ナンバーディスプレイ	アナログ電話機のナンバーディスプレイの有無を選択します。	あり なし （ポート毎）	あり （全ポート）
モデムダイヤルイン	アナログ電話機のモデムダイヤルインの有無を選択します。	あり なし （ポート毎）	あり （全ポート）

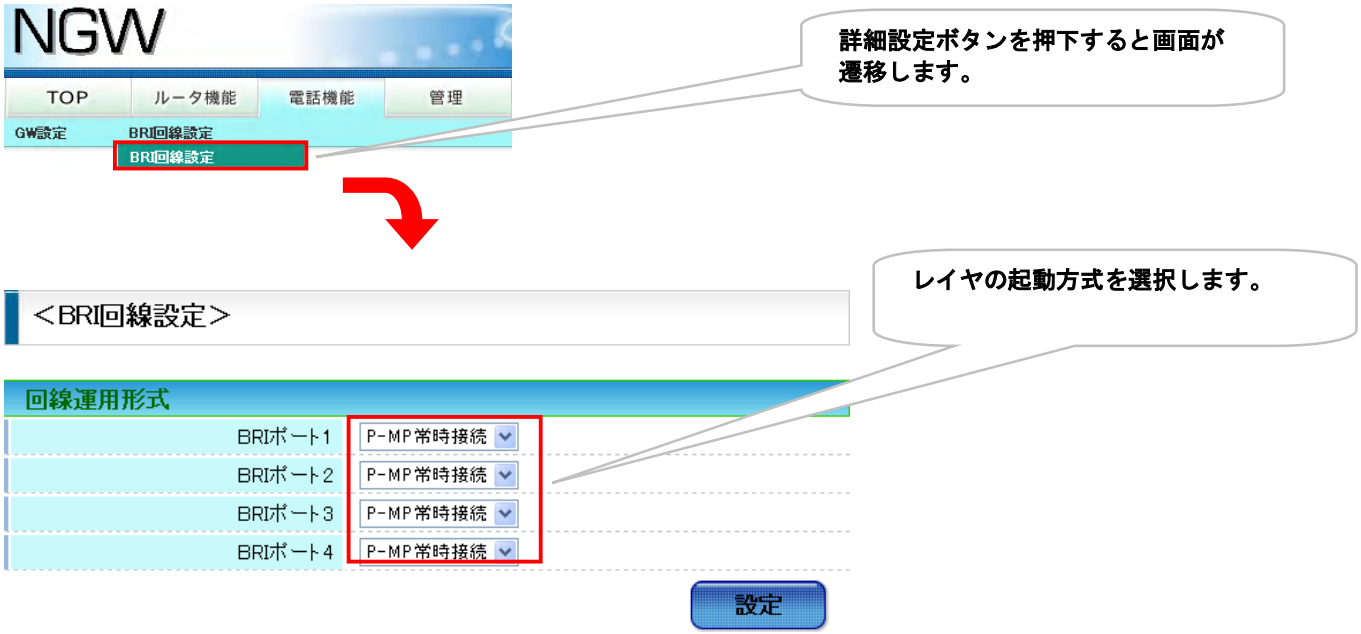
詳細設定の設定を行います。

（NEPRO-04/08a のみ）



内容項目	説明	設定範囲	初期値
ジッターバッファ長	ジッターバッファのサイズを指定します。	半角数字 （10～120）	80
エコーキャンセラー長	エコーキャンセラーのサイズを指定します。	8ms, 16ms, 32ms	32ms
エコーキャンセラー	エコーやハウリングを抑止するエコーキャンセラーを利用するか否かを指定します。	有効 無効	有効
ボリュームゲイン（デコード）	TEL1～TEL8 のひかり電話網への送話方向のボリュームゲインを設定します。	-48dB～13.5dB （0.5dB 間隔）	8dB
ボリュームゲイン（エンコード）	TEL1～TEL8 のひかり電話網への受話方向のボリュームゲインを設定します。	-48dB～15dB （0.5dB 間隔）	0dB
桁間タイマー	ダイヤルの桁間のタイマーを設定します。次のダイヤルまでのタイムアウトのタイマーになります。	1s～10s	5s

BRI の回線設定を行います。
設定についてはサブメニュー『BRI 電話設定』(NEPRO-02/04b) を選択します。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
回線運用形式	接続機器のレイヤ 1 起動種別をポート毎に選択します。	P-P 常時 P-MP 常時 P-MP 呼毎	P-MP 常時

※レイヤ１起動種別の設定に相違があると接続が行えません。

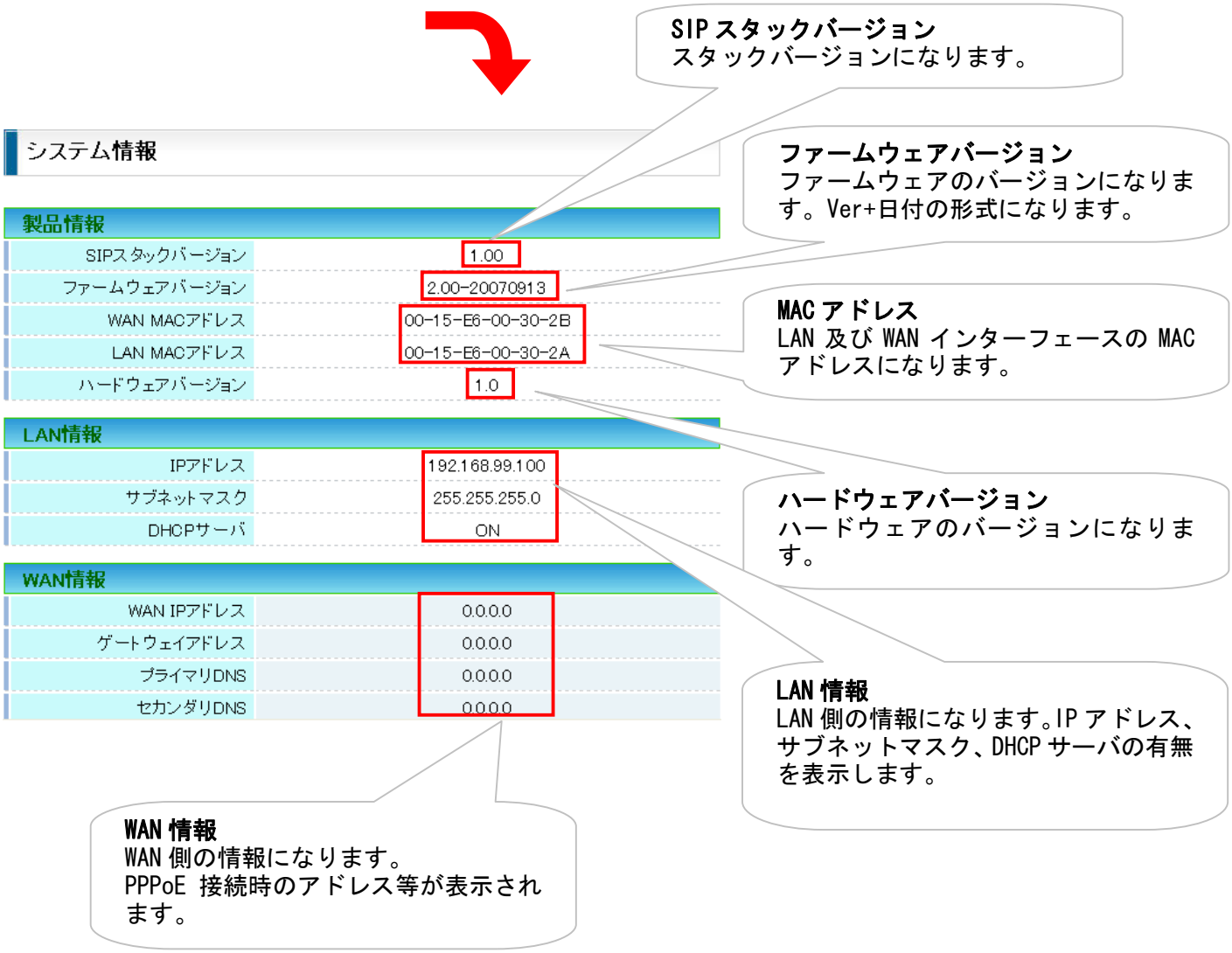
4章　管理･バックアップ設定

この章では設定のバックアップ、ログの取得等管理保守について解説します。

4−1　MAC アドレス等(システム情報)を表示する

管理画面にて、ファームウェアバージョン、LAN 及び WAN インターフェースの MAC アドレス、LAN 情報、WAN 情報を表示することが可能です。
WAN 情報については PPPoE 接続時のアドレスになります。

TOP 画面より、『管理』を選択します。
また、『管理』⇒『ルータ情報』⇒『システム情報』でも表示出来ます。

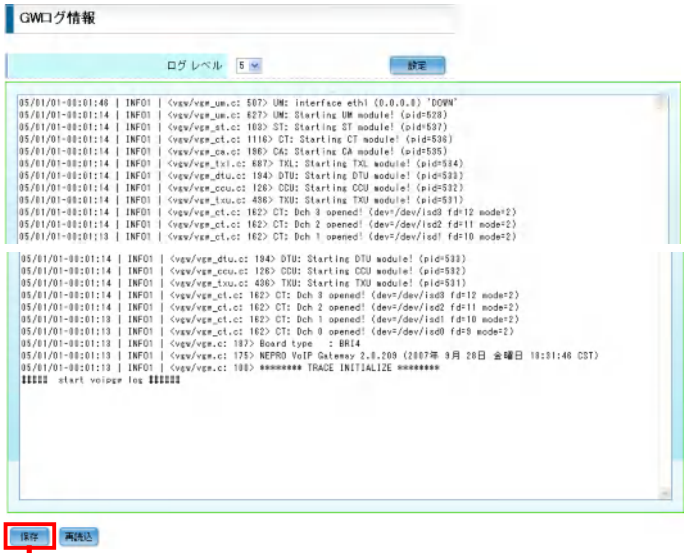


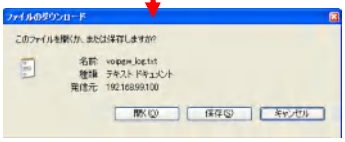
4−2　各種ログのバックアップを行う

GW 内のシステムログ及び GW ログのバックアップを行います。
表示についてはシステム担当者向けのログとなります。
システムログ情報は TOP 画面より、『管理』⇒『ルータ情報』⇒『システムログ情報』を選択します。
GW ログ情報は TOP 画面より、『管理』⇒『ルータ情報』⇒『GW ログ情報』を選択します。

【システムログ情報】

【GW ログ情報】





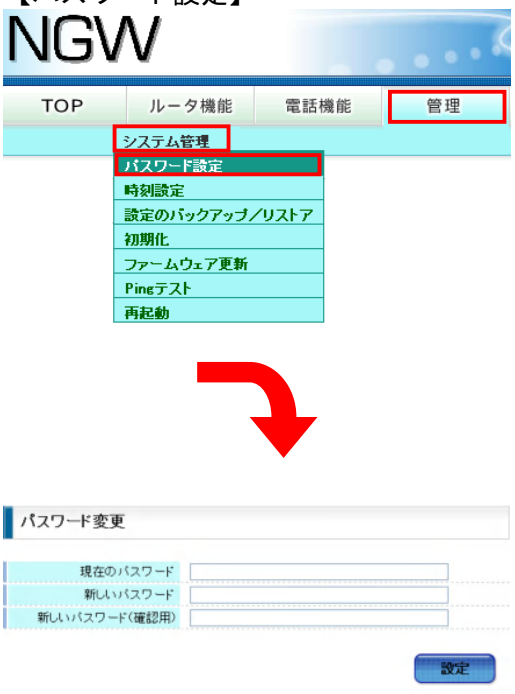
『保存』ボタンを押下するとファイルのダウンロード画面が表示されます。

内容項目	説明	設定範囲	初期値
保存	保存ボタンを押すとバックアップ画面が表示されます。保存形式はテキスト形式になります。	—	—
再読込	再読込ボタンを押すとログの再読み込みを行います。保存形式はテキスト形式になります。	—	—
ログレベル ※GW ログのみ	ログの詳細度を示します。 1 から順に 8 が最も詳細な情報となります。	1〜8	5

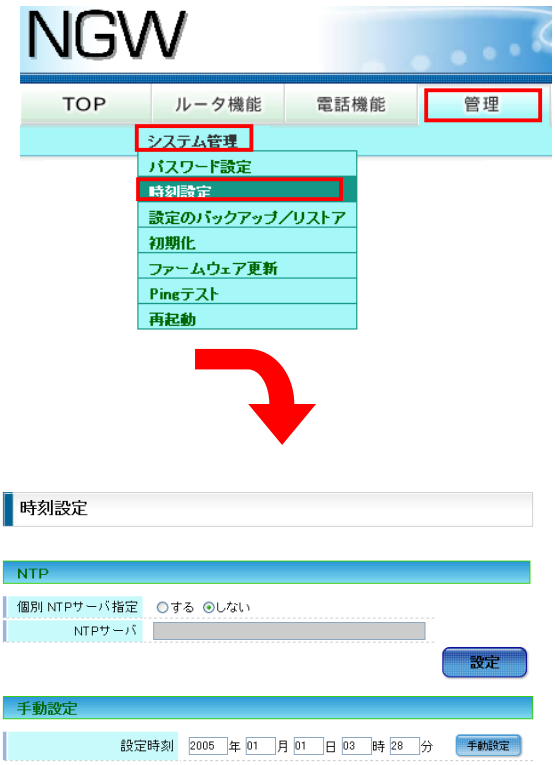
4−3　パスワードを設定する、時刻を変更する

パスワードを変更する場合にはシステム管理画面より変更が可能です。
時刻設定についても同様にシステム管理メニューより設定が可能です。
パスワード設定は TOP 画面より『管理』⇒『システム管理』⇒『パスワード設定』から行います。
時刻設定については TOP 画面より『管理』⇒『システム管理』⇒『時刻設定』から行います。

【パスワード設定】



【時刻設定】

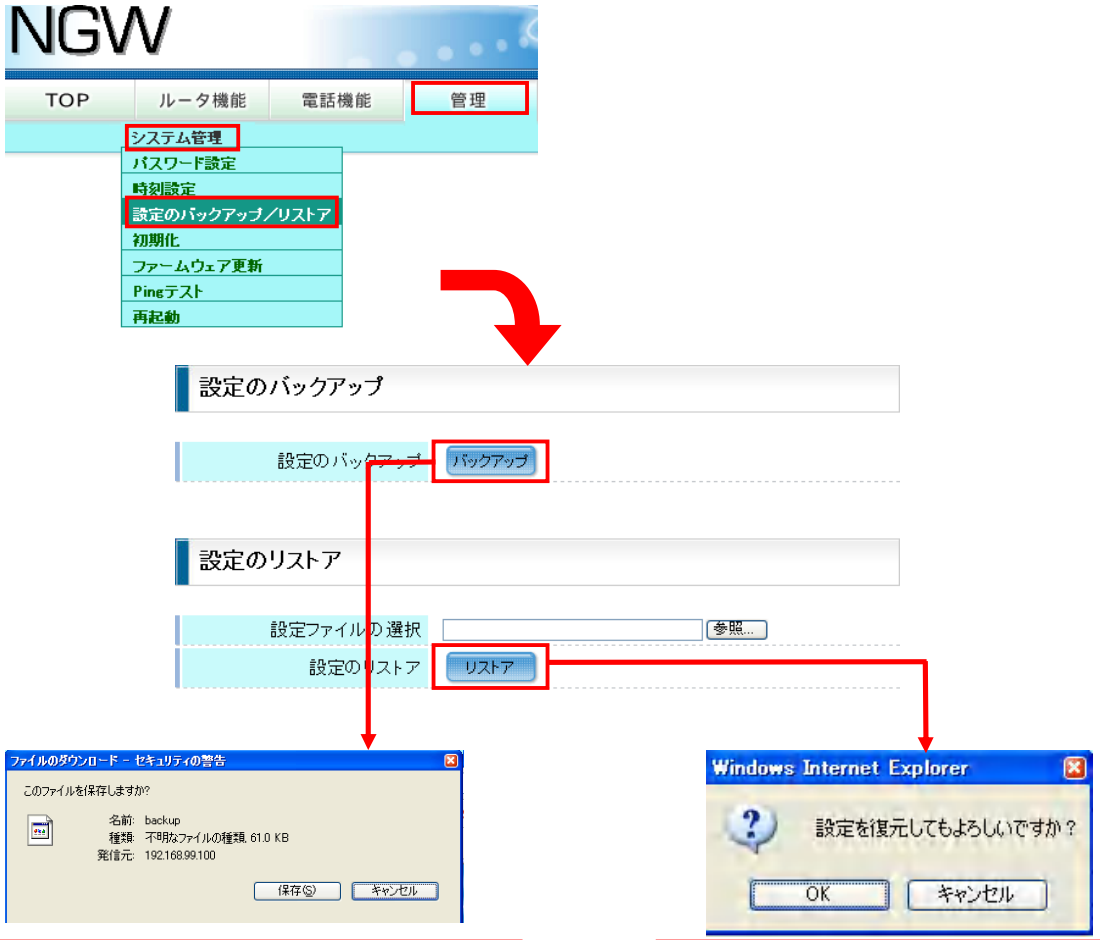


内容項目	説明	設定範囲	初期値
現在のパスワード	現在のパスワードを入力します。	半角英数字 最大 8 文字 空白/スペース不可	空白
新しいパスワード	新しいパスワードを入力します。	半角英数字 最大 8 文字 空白/スペース不可	空白
新しいパスワード （確認用）	新しいパスワードを確認の為、再度入力します。	半角英数字 最大 8 文字 空白/スペース不可	空白
個別 NTP サーバ指定	個別 NTP サーバを利用するかしないかを選択します。	する しない	しない
NTP サーバ	個別に NTP サーバを指定する場合のサーバの IP アドレスまたはドメイン名を設定します。	半角英数字 最大 43 文字 空白/スペース不可	空白
設定時刻	システム時刻を手動にて設定します。	半角英数字 空白/スペース不可 年：2006-2050 月：1-12 日：1-31 時：0-23 分：0-59	現在のシステム時間

4−4　設定のバックアップ/リストアを行う

GW の設定のバックアップ（保存）/リストア（復元）を行う事が可能です。
設定については TOP 画面より『管理』⇒『システム管理』⇒『設定のバックアップ/リストア』から行います。

※ 設定のバックアップをしたものについては同様のファームウェアバージョンでしか有効となりません。相違するファームウェアバージョンへのリストアは出来ませんのでご注意下さいませ。



『バックアップ』ボタンを押下するとファイルのダウンロード画面が表示されます。

『リストア』ボタンを押下すると「設定を復元してもよろしいですか？」と表示されます。

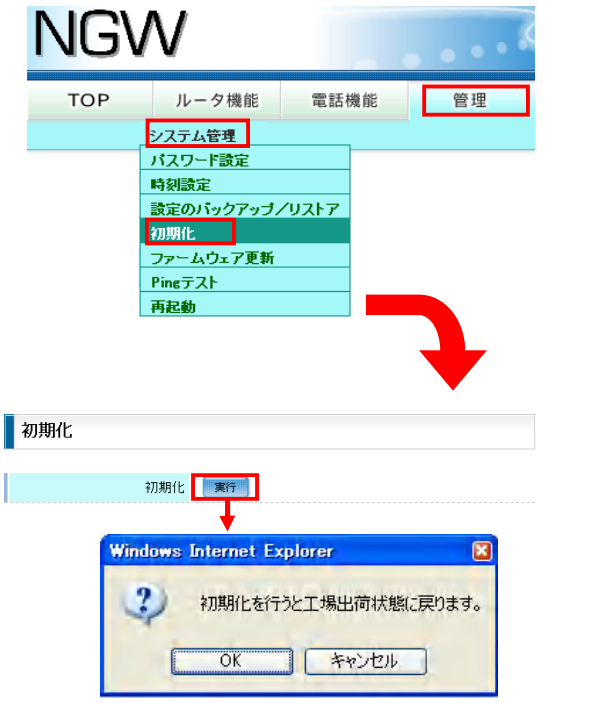
内容項目	説明
バックアップ	現在の設定値をファイルにバックアップします。保存名は「backup.tar」(変更可能）となります。
参照	『**参照**』ボタンを押下し、リストア(復元)する設定ファイルを指定します。
リストア	リストアすると設定復元のポップアップが表示されます。 『**OK**』を選択すると復元を実行し、その後「復元が完了し、システムが再起動するまでしばらく時間がかかります。処理が完了するまで電源を切らないでください。」と表示され、『**OK**』ボタンを押すことで、指定したファイルから設定を読み出し、設定後、自動的に再起動します。

4−5　初期化を行う、ファームウェア更新を行う

GW を工場出荷状態に戻すことが可能です。

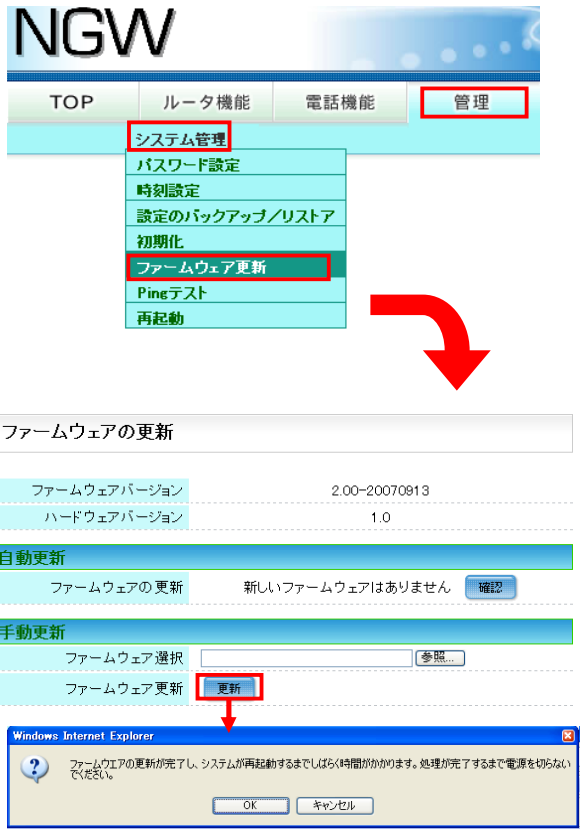
ファームウェアの更新も同様のシステム管理メニューより実行が可能です。
初期化は TOP 画面より『管理』⇒『システム管理』⇒『初期化』から行います。
ファームウェア更新については TOP 画面より『管理』⇒『システム管理』⇒『ファームウェア更新』から行います。

【初期化】



『実行』ボタンを押下すると「初期化を行うと工場出荷情報に戻ります。」と表示されます。

【ファームウェア更新】



『更新』ボタンを押下すると「ファームウェアの更新が完了し、システムが再起動するまでしばらく時間がかかります。処理が完了するまで電源を切らないでください。」と表示されます。

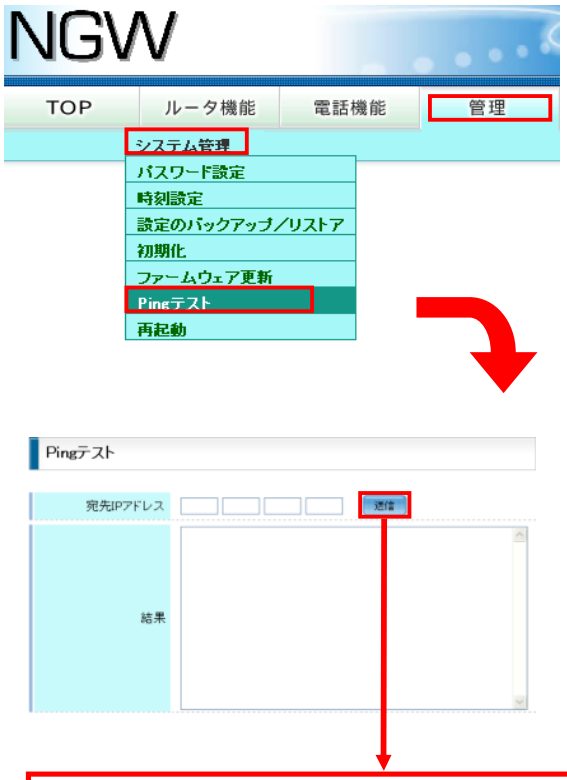
内容項目	説明
実行	『**実行**』ボタンを押下すると初期化のポップアップが表示されます。 『**OK**』を選択すると初期化後、自動再起動します。
確認	現在は未対応です。 『**確認**』ボタンを押下するとファームウェアの更新があるかどうかを確認します。
参照	『**参照**』ボタンを押下し、ファームアップするファームウェアを指定します。
更新	『**更新**』ボタンを押下すると更新のポップアップが表示されます。 『**OK**』を選択すると更新を実行し、ファームウェアが機器に転送され、 自動再起動します。

※　初期化実行中及びファームウェア更新中は電源を切らないでください。動作が不安定となり、機器が立ち上がらなくなる事があります。

4−6　Ping テストを行う、再起動を行う

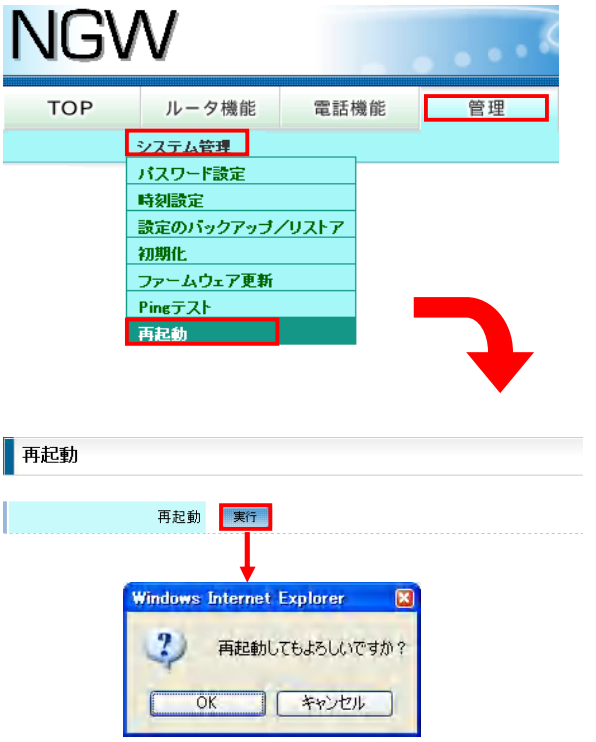
WAN 側に対して Ping テストを行います。
再起動についても同様のシステム管理メニューより実行が可能です。
Ping テストは TOP 画面より、『管理』⇒『システム管理』⇒『Ping テスト』を選択します。
再起動は TOP 画面より、『管理』⇒『システム管理』⇒『再起動』を選択します。

【Ping テスト】



『送信』ボタンを押下すと Ping を指定のアドレスへ送信します。(3 回)

【再起動】



『実行』ボタンを押下すると「再起動してもよろしいですか？」と表示されます。

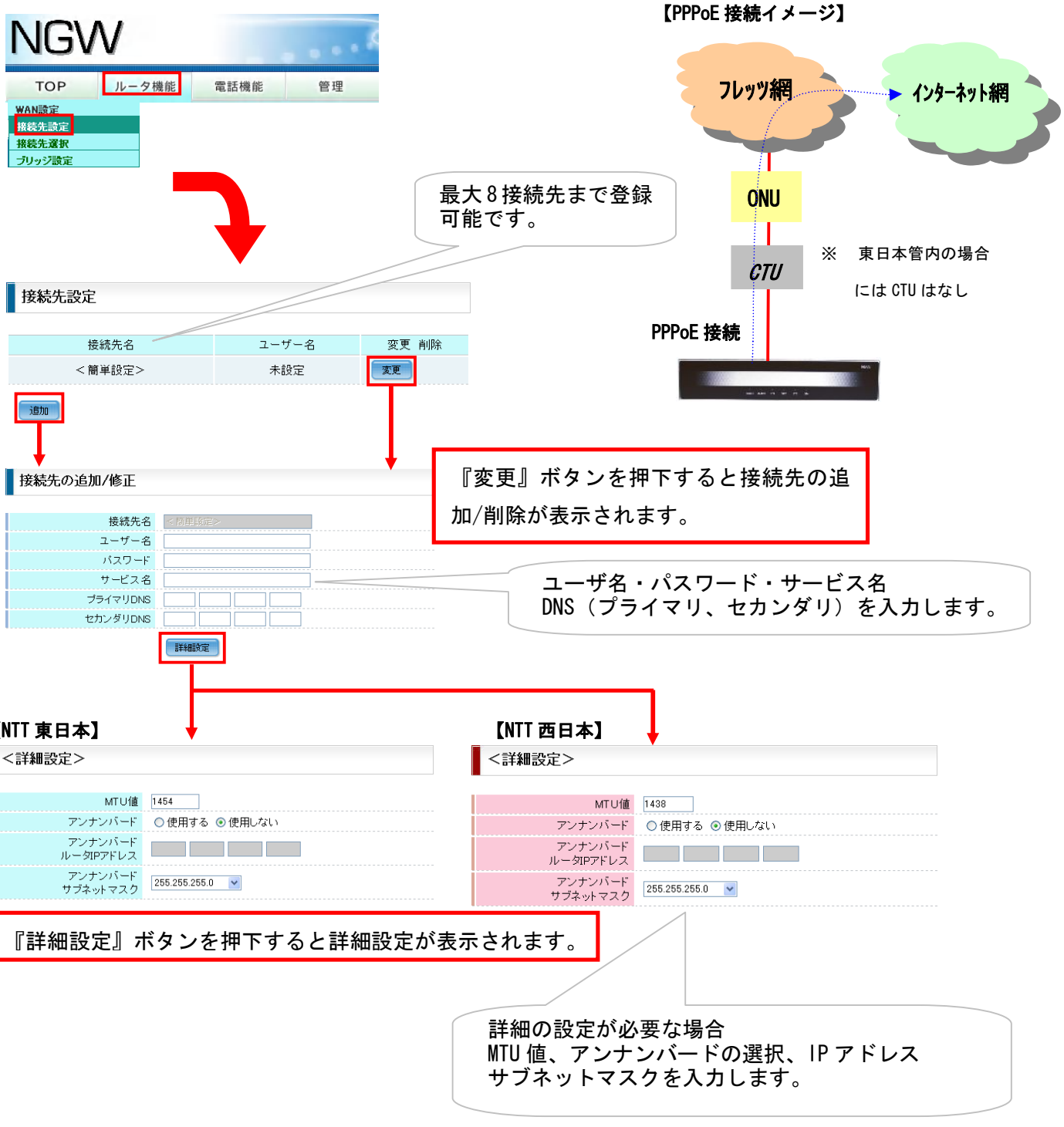
内容項目	説明	設定範囲	初期値
宛先 IP アドレス	ネットワーク接続を確認するため、対象端末の IP アドレスを設定します。	半角数字 0～255(空白不可)	空白
送信	『**送信**』ボタンを押下で、Ping テストが実行されます。(3 回送信)	—	—
結果	Ping テストの実行結果が表示されます。	1～8	5
再起動実行	『再起動』を押下すると再起動画面が表示されます。『OK』を押すと再起動が実行されます。	—	—

5章　ルータ機能の設定

この章では本装置のルータ機能設定画面の詳細利用方法について解説します。

5−1　接続先を設定する

本装置の接続先設定を行う場合設定します。
設定は TOP 画面より、『ルータ機能』⇒『WAN 設定』⇒『接続先選択』から行います。
接続方法は、PPPoE 接続となります。最大 8 件の登録が可能です。



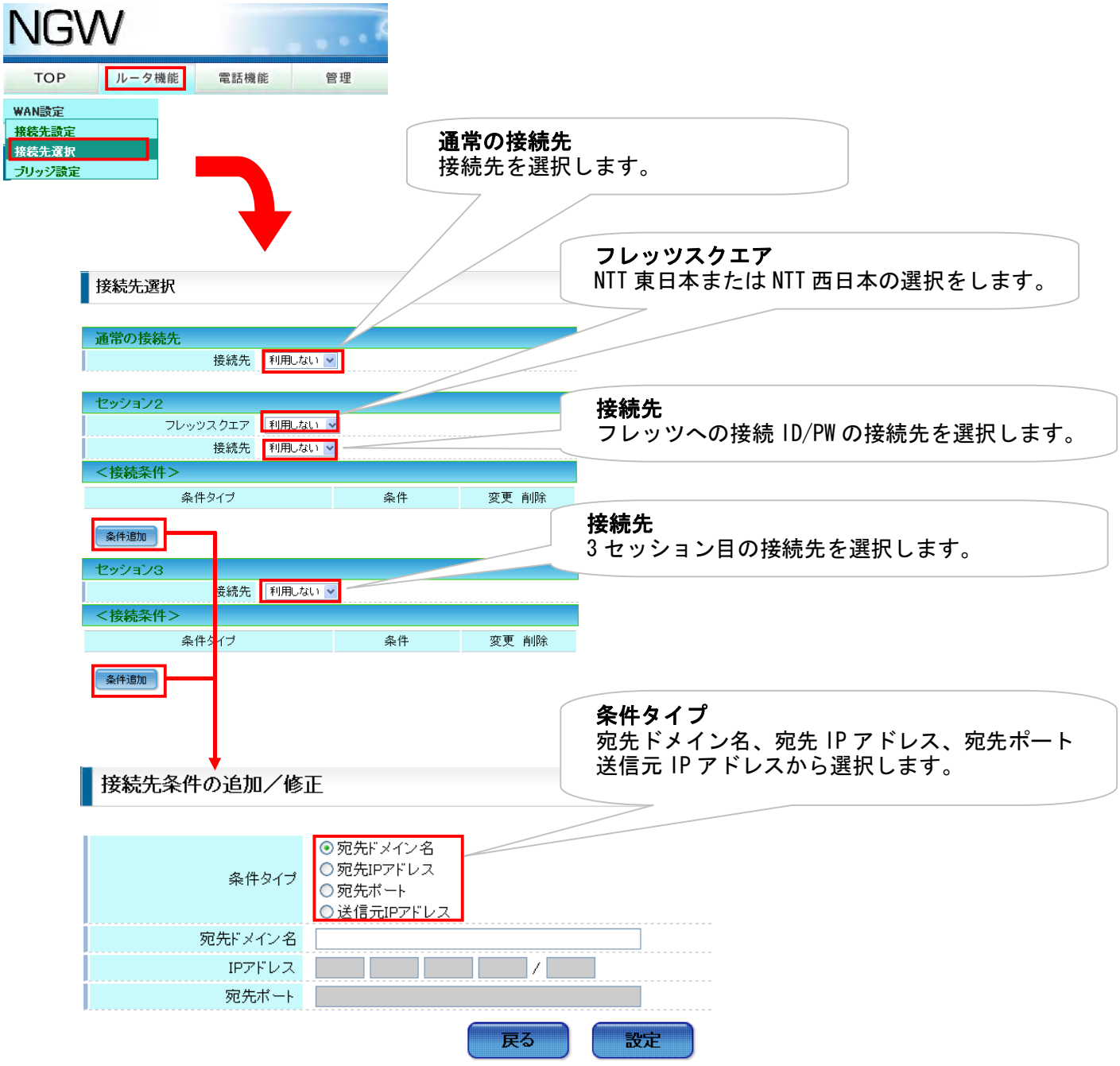
内容項目	説明	設定範囲	初期値
接続先名称	画面に表示する接続先名称を設定します。	全半角英数字 最大 29 文字 空白可	空白
ユーザー名	プロバイダに接続する為の接続名称を設定します。	半角英数字 最大 29 文字 一部空白不可 空欄可	空白
パスワード	プロバイダに接続する為のパスワードを設定します。	半角英数字 最大 16 文字 一部空白不可 空欄可	空白
サービス名	プロバイダが指定時のみサービス名を設定する。	半角英数字 空白可 最大 29 文字	空白
プライマリ DNS	プロバイダが指定時のみプライマリ DNS サーバアドレスを設定する。	半角数字 範囲（0-255） 一部空白不可 空欄可	空白
セカンダリ DNS	プロバイダが指定時のみセカンダリ DNS サーバアドレスを設定する。	半角数字 範囲（0-255） 一部空白不可 空欄可	空白
MTU 値	IP パケットの最大長を指定します。	半角数字 範囲（576-1492） 空欄不可	1454（NTT 東） 1438（NTT 西）
アンナンバード	複数の IP アドレスが提供されるアンナンバード接続機能を利用するかを設定します。	使用する 使用しない	使用しない
アンナンバードルータ IP アドレス	アンナンバード接続機能を使用する際、プロバイダから提供される IP アドレスのうち、通常先頭から 2 番目の IP アドレスを設定します。	半角数字 範囲（0-255） 空欄不可	空白
アンナンバードサブネットマスク	アンナンバード接続機能を使用する際、プロバイダから提供されるサブネットマスクを選択します。	255.0.0.0～ 255.255.255.252	255.255.255.0

必要な項目を設定して『設定』ボタンを押すと設定が保存されます。
設定を反映するには、本装置のステータスメニューの『反映』ボタンを押下して下さい。
追加に関しては初期「簡単設定」を含め 8 接続先が最大になります。

※ 音声を使用する場合、データとの併用は本装置では推奨しておりません。データ帯域を絞って使用する事は可能です。（データ帯域初期値：9Mbps）データ量が多い場合に音声に影響が出る事がございます。ご注意下さいませ。

5−2　接続先を選択する

接続先設定において登録した接続先のうち、実際に使用する接続先を選択します。
条件にあてはまった時は、自動的にセッション 2、セッション 3 の接続先が使用されます。
設定は TOP 画面より、『ルータ機能』⇒『WAN 設定』⇒『接続先選択』から行います。
最大 3 セッションまで設定する事が可能です。

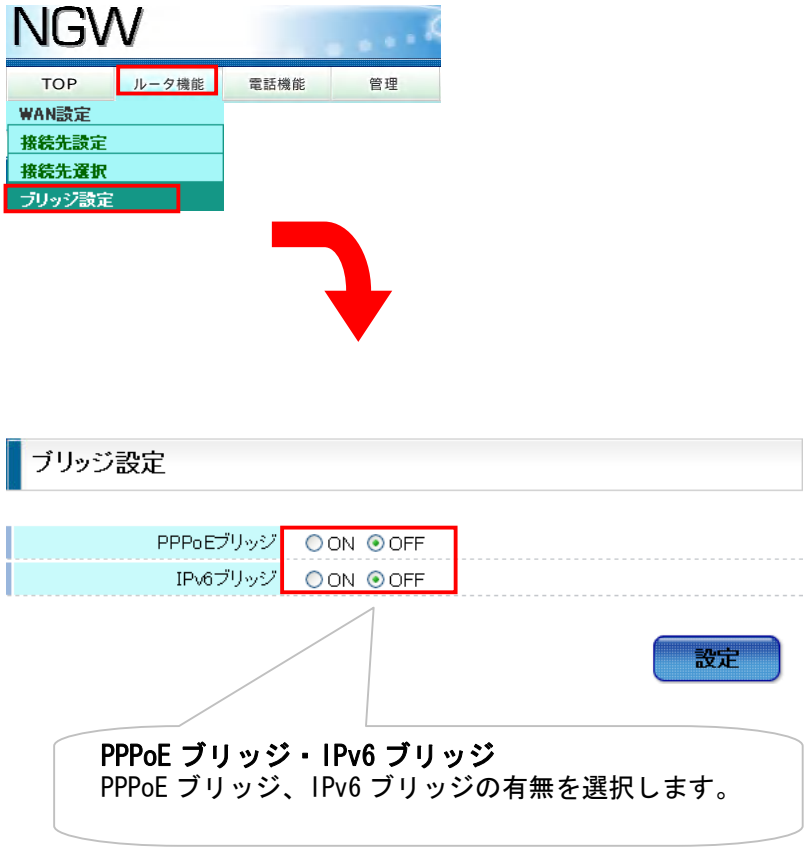


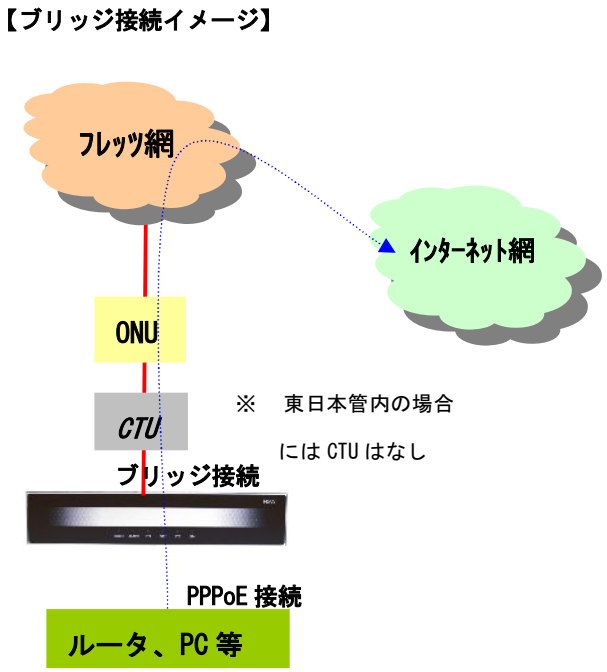
『条件追加』ボタンを押下すると接続先条件の追加/修正が表示されます。

内容項目	説明	設定範囲	初期値
通常の接続先	使用する接続先を選択します。接続先設定で接続先名が設定されていないときはユーザ名を表示します。	利用しない 接続先名	利用しない
セッション 2 （フレッツスクエア）	フレッツスクエアを利用するかしないかを選択します。	利用しない NTT 東日本 NTT 西日本	利用しない
セッション 2 （接続先）	使用する接続先を選択します。接続先設定で接続先名が設定されていないときはユーザ名を表示します。	利用しない 接続先名	利用しない
セッション 3 （接続先）	使用する接続先を選択します。接続先設定で接続先名が設定されていないときはユーザ名を表示します。	利用しない 接続先名	利用しない
条件タイプ	セッション 2 またはセッション 3 を使用する為の条件タイプを選択します。	宛先ドメイン名 宛先 IP アドレス 宛先ポート 送信元 IP アドレス	宛先ドメイン名
宛先ドメイン名	条件タイプが宛先ドメイン名の時、ドメイン名を入力します。	半角英数字 スペース不可、 記号は“－”または“＿”のみ使用可	空白
宛先 IP アドレス	条件タイプが宛先 IP アドレスの時、IP アドレスを入力します。	半角数字 範囲 （0.0.0.0- 255.255.255.255）	空白
宛先ポート	条件タイプが宛先ポート番号の時、ポート番号を入力します。	半角数字 範囲 （1-65535） 例：100-200	空白
送信元 IP アドレス	条件タイプが送信元 IP アドレスの時、送信元 IP アドレスを入力します。	半角数字 範囲 （0.0.0.0- 255.255.255.255）	空白

5−3　ブリッジ機能を利用する

ブリッジ接続をする場合にはブリッジ機能を利用します。
LAN に接続されているパソコン等から PPPoE 接続を許可する場合や IPv6 通信を許可する場合に使用します。
設定は TOP 画面より、『ルータ機能』⇒『WAN 設定』⇒『ブリッジ設定』から行います。

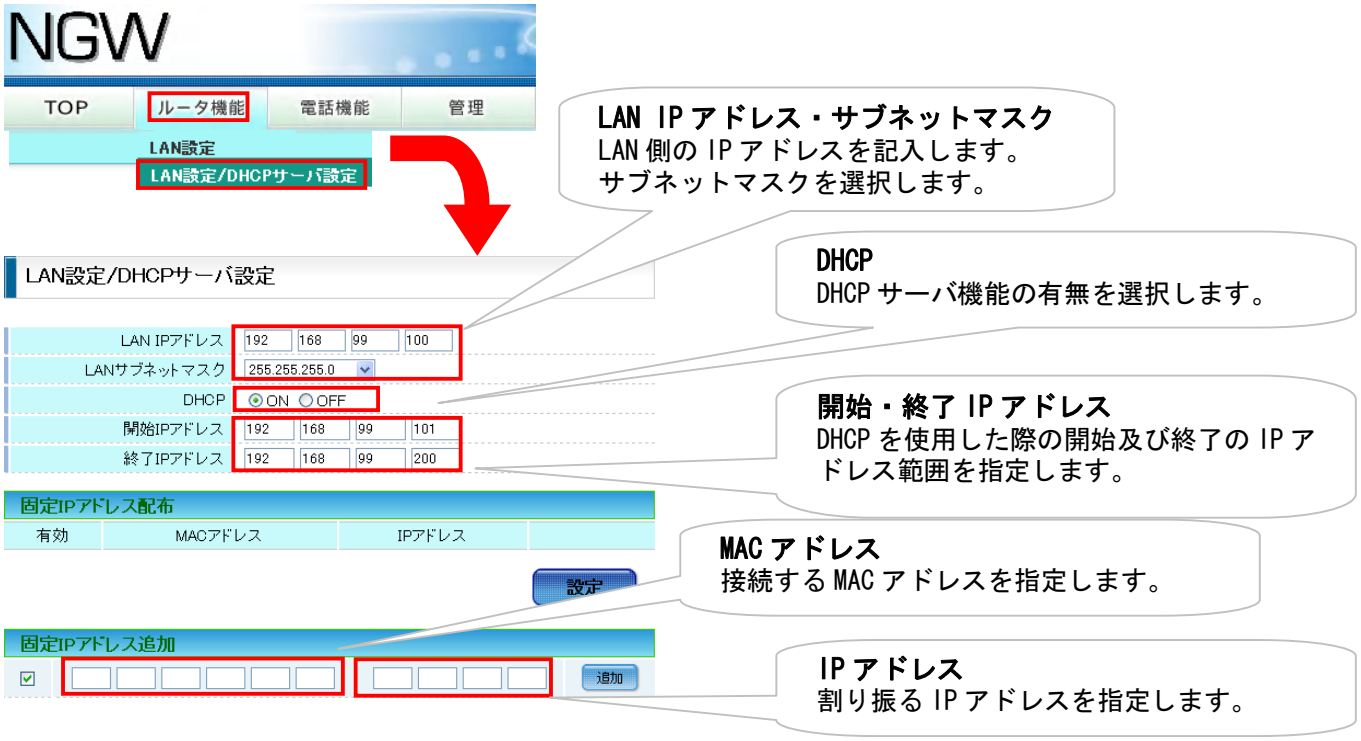




内容項目	説明	設定範囲	初期値
PPPoE ブリッジ	PPPoE 接続のブリッジを行うか遮断するかを選択します。	ON OFF	OFF
IPv6 ブリッジ	IPv6 パケットのブリッジを行うか遮断するかを選択します。	ON OFF	OFF

5−4　LAN ポートの設定を行う

LAN ポートの設定を行います。設定は TOP 画面より、『ルータ機能』⇒『LAN 設定』から行います。
初期状態では **固定 IP アドレス** 192.168.99.100 が設定されます。
※WAN ポートと同じネットワークに属するアドレスを LAN ポートに割り振ることはできません。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
LAN IP アドレス	LAN 側 IP アドレスを指定します。WAN 側ネットワークと重複している IP アドレスを指定することはできません。 ※初期値を変更した際は、管理画面へのアクセス先 URL も変更になります。	半角数字 範囲(0-255) 空欄不可	192.168.99.100
LAN サブネットマスク	LAN 側のサブネットマスクを指定します。	255.0.0.0～ 255.255.255.252	255.255.255.0
DCHP	LAN 側ネットワークへ DHCP サービスを提供するかを選択します。	ON OFF	ON
開始 IP アドレス	DHCP サービスを提供した場合、配布開始 IP アドレスを指定します。	半角数字 範囲(0-255) 空欄不可	192.168.99.101
終了 IP アドレス	DHCP サービスを提供した場合、配布終了 IP アドレスを指定します。	半角数字 範囲(0-255) 空欄不可	192.168.99.200
MAC アドレス	固定 IP アドレスを割り当てる機器の MAC アドレスを指定します。 同 MAC アドレスを重複登録はできません。	16 進数で 2 桁 空欄不可	空白
IP アドレス	固定 IP アドレスを割り当てる機器の IP アドレスを指定します。同 IP アドレスを重複登録はできません。	半角数字 範囲(0-255) 空欄不可	空白

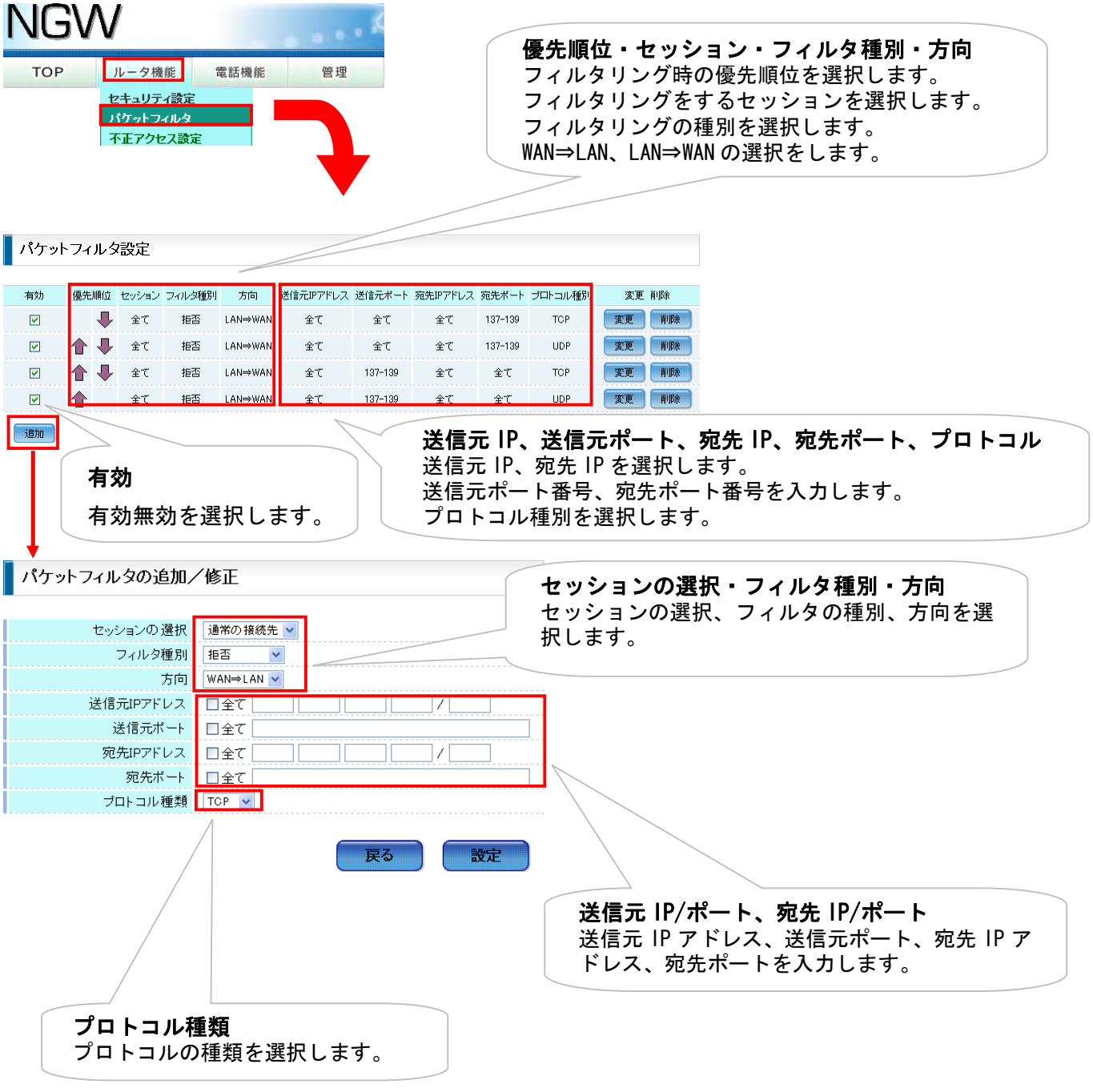
※固定 IP アドレスのチェックを外すと設定が無効となります。

5−5　セキュリティ設定をする

セキュリティ設定を行います。
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『セキュリティ設定』から行います。

１．パケットフィルタを設定する

WAN⇔LAN 間のパケットの透過/非透過の設定を行います。登録できるパケットフィルタ数は最大で 64 件になります。
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『セキュリティ設定』⇒『パケットフィルタ』から行います



内容項目	説明	設定範囲	初期値
有効	登録されているパケットフィルタを有効にする場合にチェックをつけます。一時的に無効にする際はチェックを外します。	有効：チェック有 無効：チェック無	チェック有
優先順位	登録されているパケットフィルタの『↑』『↓』ボタンを押すことで、フィルタリング時の優先順位を変更します。『↑』『↓』ボタンを押下すると、ひとつずつ上下に移動します。	―	―
セッションの選択	どの接続先に対してフィルタリングを行うかを選択します。	通常の接続先 セッション 2 セッション 3 全て	通常の接続先
フィルタ種別	送信先から宛先への IP パケットの通過をさせる場合は「許可」を、禁止する場合は「拒否」を選択する。「許可（ログ）／拒否（ログ）」は、パケットフィルタで処理した場合にログが残ります。	許可 拒否 許可（ログ） 拒否（ログ）	拒否
方向	フィルタリングを行うパケットが「WAN 側から LAN 側」（「W→L」）か「LAN 側から WAN 側」（「L→W」）を指定します。	WAN→LAN LAN→WAN	WAN→LAN
送信元 IP アドレス	フィルタリングを行う送信元 IP アドレスを指定します。全てのポートを対象とするときは「全て」にチェックをつけます。この場合、IP ｱﾄﾞﾚｽ指定は無効になります。 / の後にサブネットマスクのマスク長を設定します。何も設定しない場合は、32 として設定されます。プロトコル種別で ICMP 選択時は無効となります。	1) IP アドレス指定時 半角数字（0～255） 第一ｵｸﾃｯﾄ 0,127 不可 マスク:8～32 2) 全て指定時 『全て』にチェック	空白
送信元ポート	フィルタリングを行う送信元ポートの指定をします。全てのポートを対象とするときは「全て」にチェックをつけます。このとき送信ポート設定は無効となります。 1 つのポート番号を指定する場合はポート番号で、範囲指定の場合は、ポート番号をハイフン“－”で指定します。プロトコル種別で ICMP 選択時は無効となります。	1) ポート指定時 半角数字 範囲（1-65535） “-”で範囲指定 例：「100-200」 2) 全て指定時 『全て』にチェック	空白
宛先 IP アドレス	フィルタリングを行う宛先 IP アドレスを指定します。全ての IP アドレスを対象とするときは『全て』にチェックをつけます。この場合、宛先 IP アドレス指定は無効になります。 /の後にサブネットマスク長を設定します。無記入の場合は 32 ビットとして設定されます。	1)　IP 指定時 半角数字 範囲（0-255） 空白不可 マスク：8-32 2)　全て指定時 『全て』にチェック	空白
宛先ポート	フィルタリングを行う宛先ポートの指定をします。 全てのポートを対象とする場合は「全て」にチェックをつけます。このとき送信ポート設定は無効となります。 1 つのポート番号を指定する場合はポート番号で、範囲指定の場合は、ポート番号をハイフン“－”で指定します。	1) ポート指定時 半角数字 範囲（1-65535） “-”で範囲指定 例:「100-200」 2) 全て指定時 『全て』にチェック	空白
プトロコル種別	フィルタリングの対象となるプロトコルを選択します。	TCP/UDP/ICMP 全て	TCP

パケットフィルタの初期エントリは以下の内容になります。

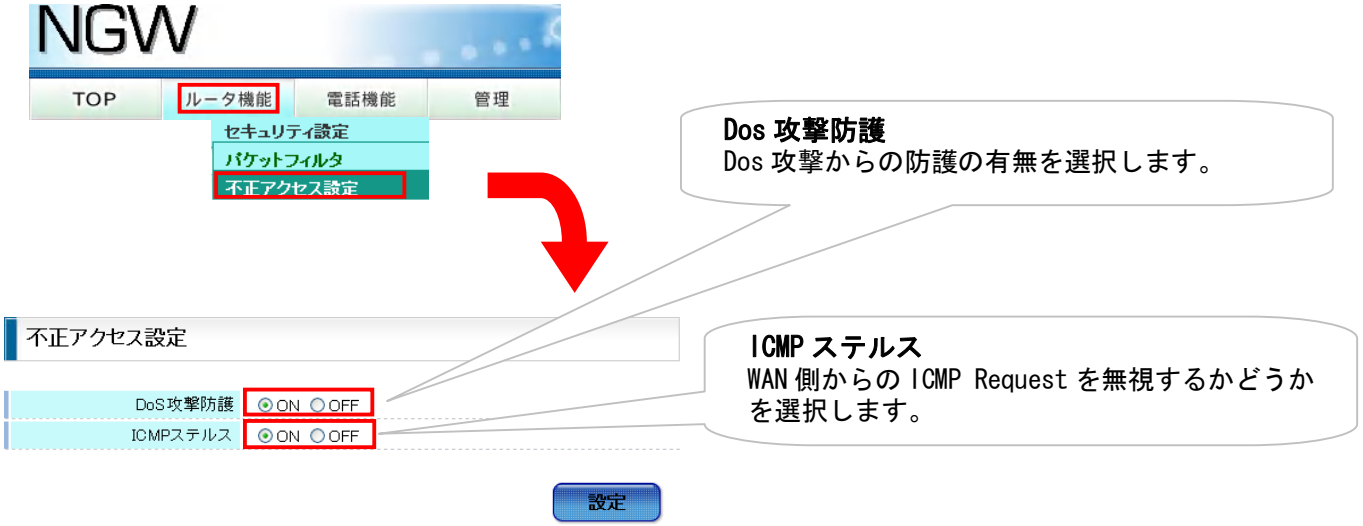
有効	優先順位	セッション	フィルタ種別	方向	送信元 IP アドレス	送信元ポート	宛先 IP アドレス	宛先ポート	プロトコル種別
チェック	↓	全て	拒否	LAN⇒WAN	全て	全て	全て	137-139	TCP
チェック	↑ ↓	全て	拒否	LAN⇒WAN	全て	全て	全て	137-139	UDP
チェック	↑ ↓	全て	拒否	LAN⇒WAN	全て	137-139	全て	全て	TCP
チェック	↑	全て	拒否	LAN⇒WAN	全て	137-139	全て	全て	UDP

『変更』ボタンを押下する事で変更可能です。また、優先順位の矢印を押下する事でフィルタリングの優先度を上げる事が可能です。

２．不正アクセスの設定

Dos 攻撃防護や ICMP ステルスの設定を行います。

設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『セキュリティ設定』⇒『不正アクセス設定』から行います



内容項目	説明	設定範囲	初期値
Dos 攻撃防護	設定を ON にすることで、Dos 攻撃から防護します。DMZ、アドレスマッピング、ポート転送にも有効です。	ON OFF	ON
ICMP ステルス	設定を ON にすることで、WAN 側からの ICMP Request を無視します。 DMZ、アドレスマッピング、ポート転送にも有効です。	ON OFF	ON

5−6　ネットワーク設定を行う

ネットワーク設定を行います。

インターネットと社内 LAN とのルーティングを行います。インターネットからのアクセスに対し、ポート転送、アドレスマッピング、DMZ の 3 種類のアドレス変換に対応します。

設定が有効に機能する優先順位は、ポート転送＞アドレスマッピング＞DMZ の順になります。

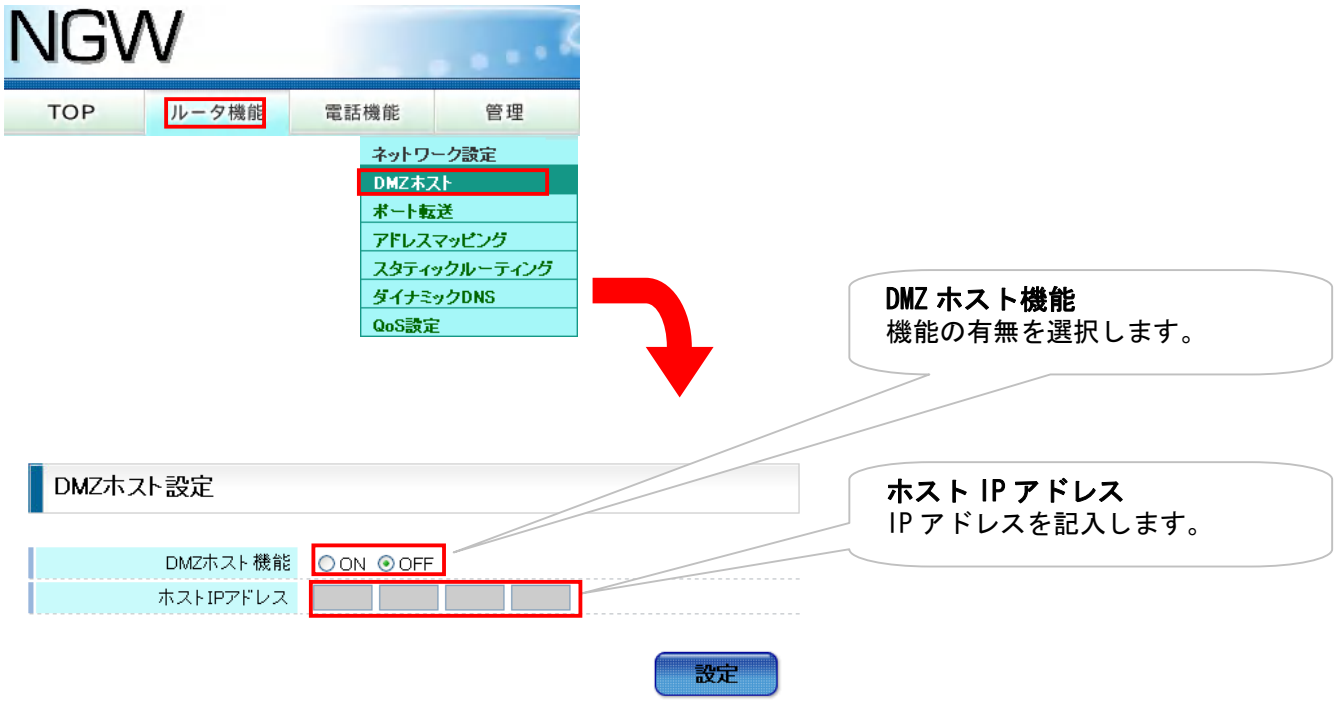
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『ネットワーク設定』から行います。

１．DMZ ホスト機能を設定する

GW の WAN 側で受信するパケットにおいてポート転送、アドレスマッピングのいずれも動作しなかった時に DMZ ホストに転送されます。

設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『ネットワーク設定』⇒『DMZ ホスト』から行います

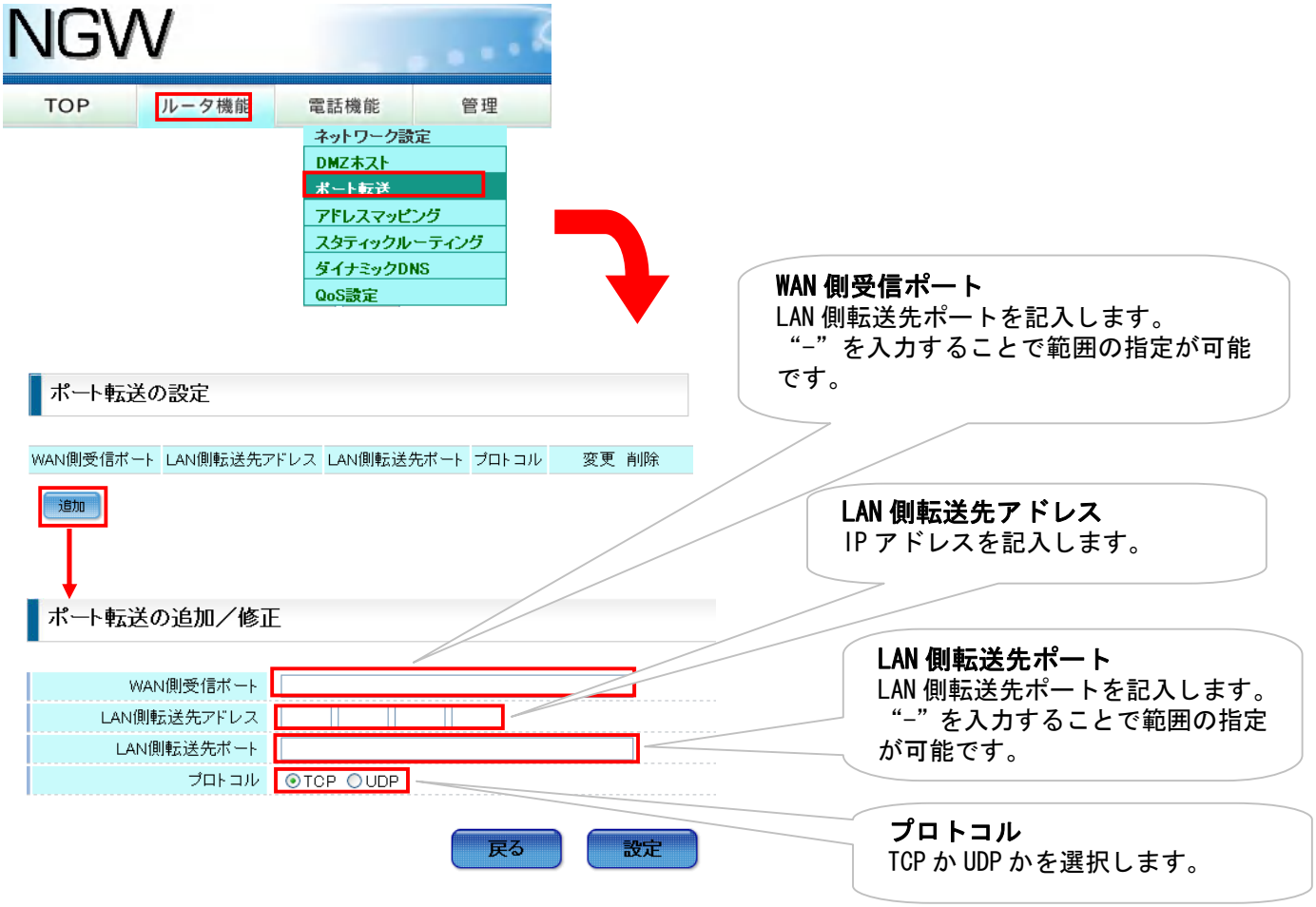
※DMZ ホスト機能の設定を行うと、自動的に WAN 側⇒LAN 側へのパケットはパケットフィルタで許可されます。ただし、パケットフィルタ設定には表示されません。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
DMZ ホスト機能	DMZ 機能の有無を設定します。	ON OFF	OFF
ホスト IP アドレス	DMZ ホストの対象となる LAN 側の IP アドレスを設定します。 DMZ ホスト機能が OFF のときは無効です。	半角数字 範囲（0-255）	空白

２．ポート転送を設定する

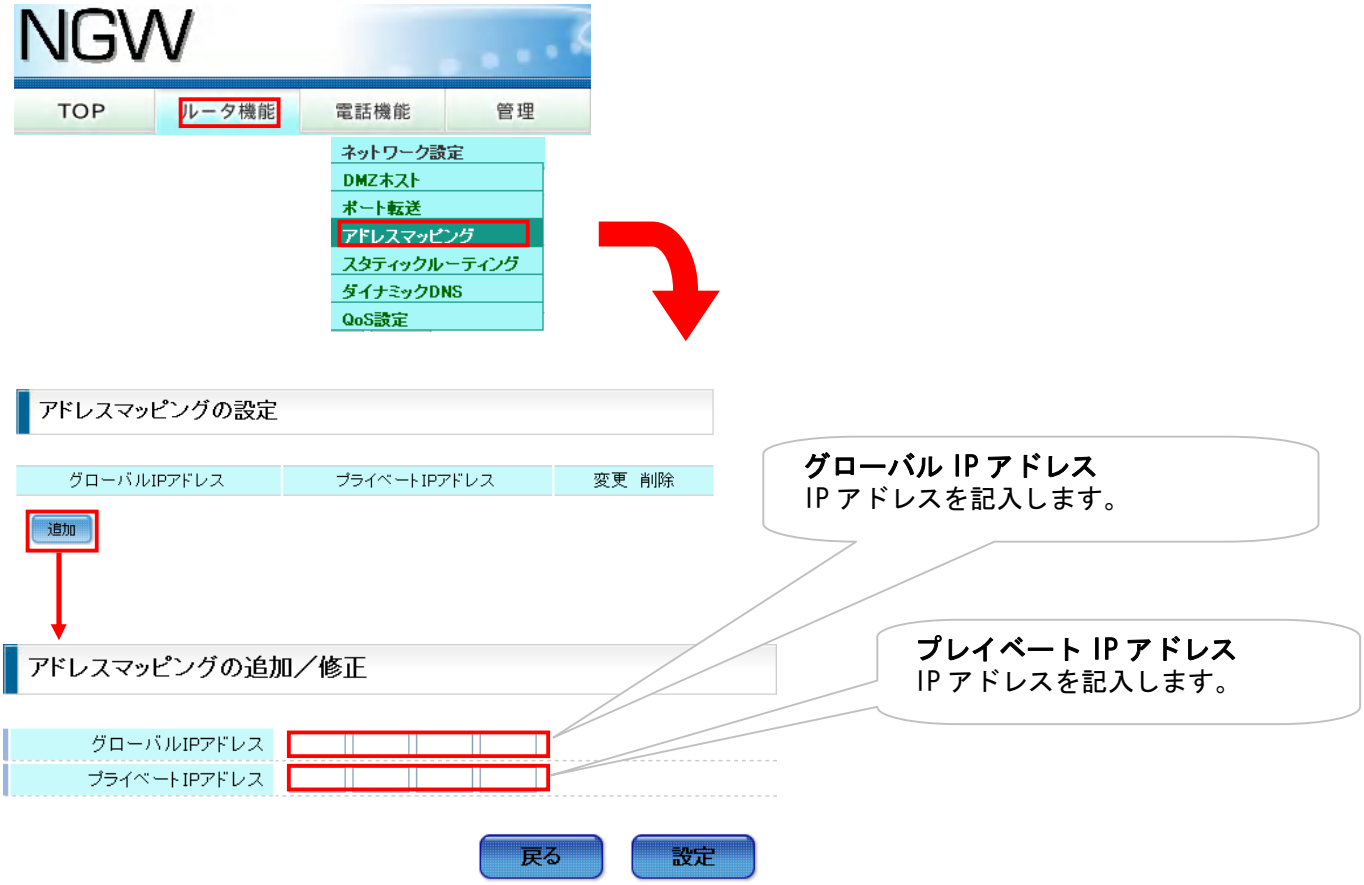
GW の WAN 側で受信するポート番号に届くパケットを、LAN 内の転送する設定を行います。
登録できるポート転送数は最大 20 件となり、1 件あたりのポート数は最大 10 ポートの範囲になります。
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『ネットワーク設定』⇒『ポート転送』から行います



内容項目	説明	設定範囲	初期値
WAN 側受信ポート	WAN 側からのアクセスを許可するポートを指定します。 ※範囲指定の場合は最大 10 ポートの範囲になります。	半角数字 範囲（1-65535） “-”にて指定可 空欄不可 例：「100-200」	空白
LAN 側転送先アドレス	WAN 側からのアクセスを転送する LAN 側 IP アドレスを指定します。	半角数字 範囲（0-255） 空欄不可	空白
LAN 側転送先ポート	WAN 側からのアクセスを転送する LAN 側ポートを指定します。 WAN 側受信ポートと同じ数を指定してください。	半角数字 範囲（1-65535） “-”にて指定可 空欄不可 例：「100-200」	空白
プロトコル	WAN 側からのアクセスを許可するプロトコルを指定します。	TCP UDP	TCP

３．アドレスマッピングを設定する

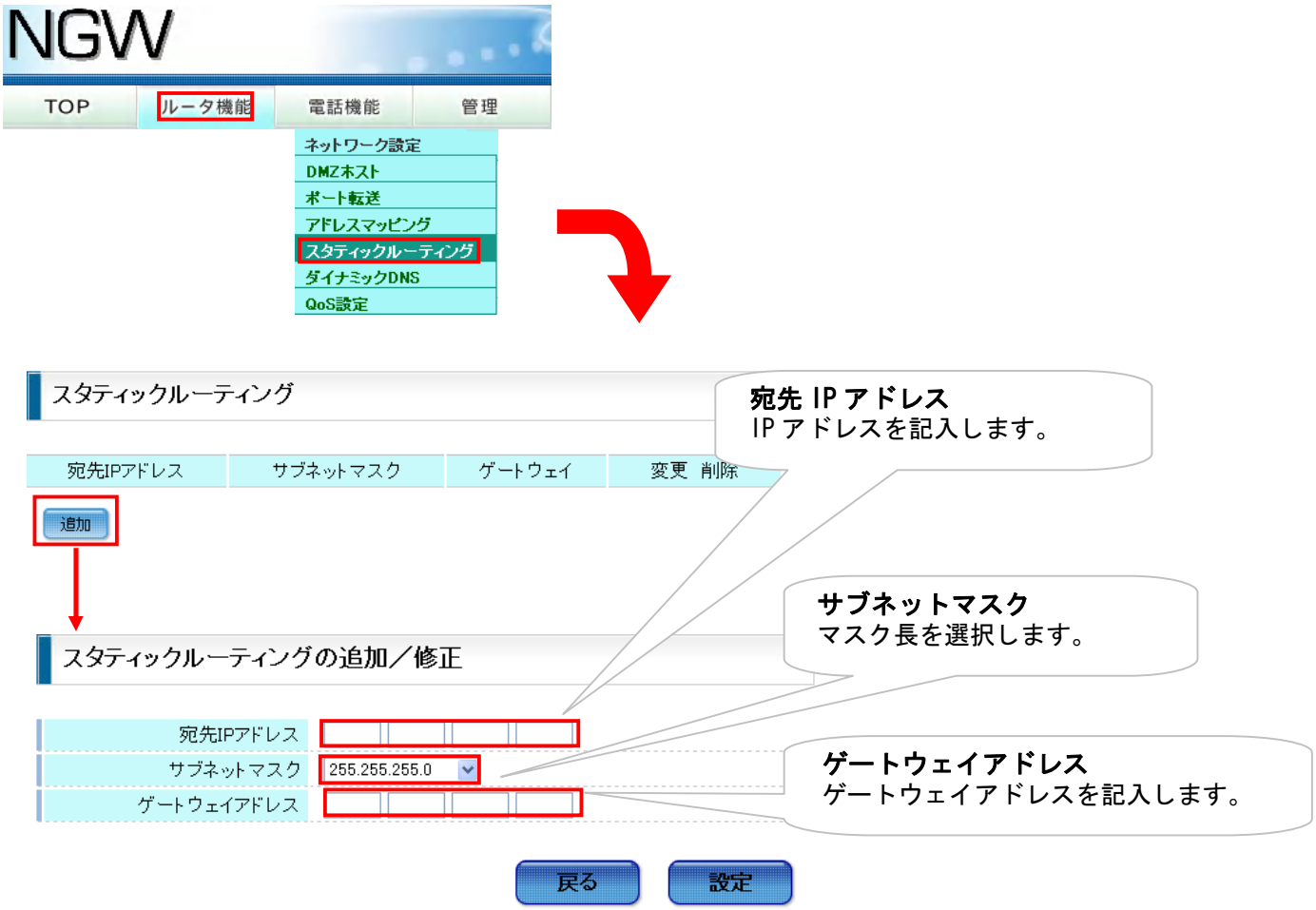
GW の WAN 側で受信する IP アドレス宛のパケットを、LAN 内の転送する設定を行います。
設定した LAN 内の IP アドレスと GW の WAN 側 IP アドレスは静的にアドレス変換されます。
登録できる件数は最大 20 件となります。
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『ネットワーク設定』⇒『アドレスマッピング』から行います。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
グローバル IP アドレス	WAN 側からのアクセスを許可する WAN 側 IP アドレスを指定します。	半角数字 範囲（1-65535） “-” にて指定可 空欄不可 例：「100-200」	空白
プライベート IP アドレス	WAN 側からのアクセスを転送する LAN 側 IP アドレスを指定します。	半角数字 範囲（0-255） 空欄不可	空白

４．スタティックルーティングを設定する

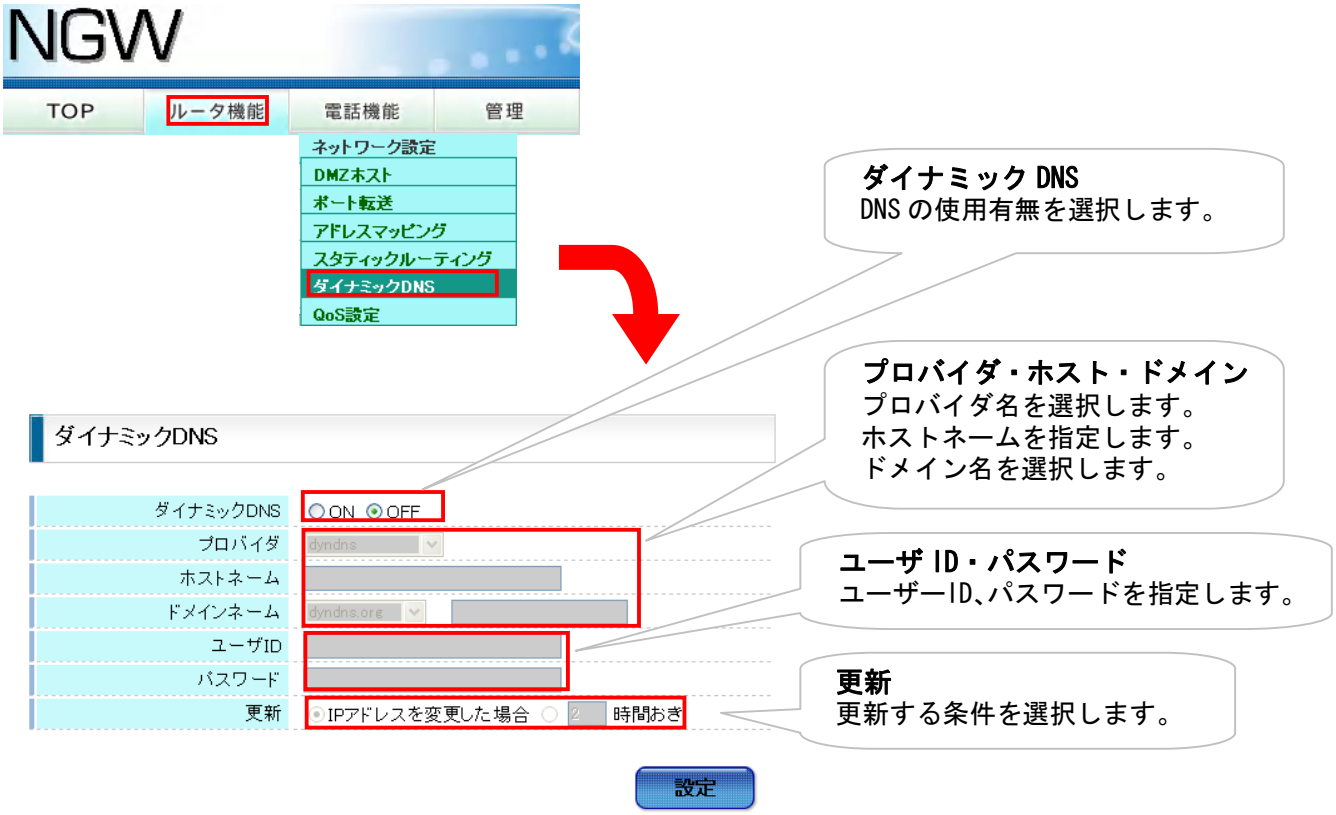
IP ネットワークを利用する際、アドレスによって接続先が異なる場合などにスタティックルーティングを設定します。登録できる件数は最大 16 件となります。
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『ネットワーク設定』⇒『スタティックルーティング』から行います。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
宛先 IP アドレス	ルーティングを行う宛先 IP アドレスを指定します、	半角数字 範囲（1-255） 空欄不可	空白
サブネットマスク	ルーティングするネットワークのサブネットマスクを選択します。	255. 0. 0. 0- 255. 255. 255. 255	255. 255. 255. 0
ゲートウェイアドレス	ルーティングをするネットワークへのゲートウェイアドレスを指定します。	半角数字 範囲（1-255） 空欄不可	空白

５．ダイナミック DNS を設定する

動的にグローバル IP アドレスが変更する環境においても、ダイナミック DNS を使用することでインターネット上からのホスト名変更の問題を解決させる事ができます。
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『ネットワーク設定』⇒『ダイナミック DNS』から行います。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
ダイナミック DNS	ダイナミック DNS の有無を選択します。	ON OFF	OFF
プロバイダ	ダイナミック DNS として利用するプロバイダを指定します。現在 6 箇所選択可能 設定内容は DNS サイトによって異なります。 利用プロバイダー覧を参照下さい。	Dyndns、dtDNS、 No-ip、IeServer Instat、 DynamicDo!Jp	Dyndns
ホストネーム	ダイナミック DNS サイトに登録した FQDN のうちホスト名を指定します。	半角英数字 最大 29 文字 空欄不可	空白
ドメインネーム	ダイナミック DNS サイトに登録した FQDN のうちドメイン名を指定します。	1)dyndns.org homeip.net homedns.org 2)その他の場合 半角英数字 最大 20 文字 空欄不可	dyndns.org
ユーザ ID	ダイナミック DNS サイトに登録したユーザ ID を指定します。	半角英数字 最大 29 文字 空欄不可	空白
パスワード	ダイナミック DNS サイトに登録したパスワードを指定します。	半角英数字 最大 29 文字 空欄不可	空白
更新	グローバル IP アドレスを更新するタイミングを選択します。「時間おき」はダイナミック DNS を更新する時間間隔を指定します。	1)IP アドレスを変更した場合 2)半角数字 範囲（1-240）	IP アドレスを変更した場合

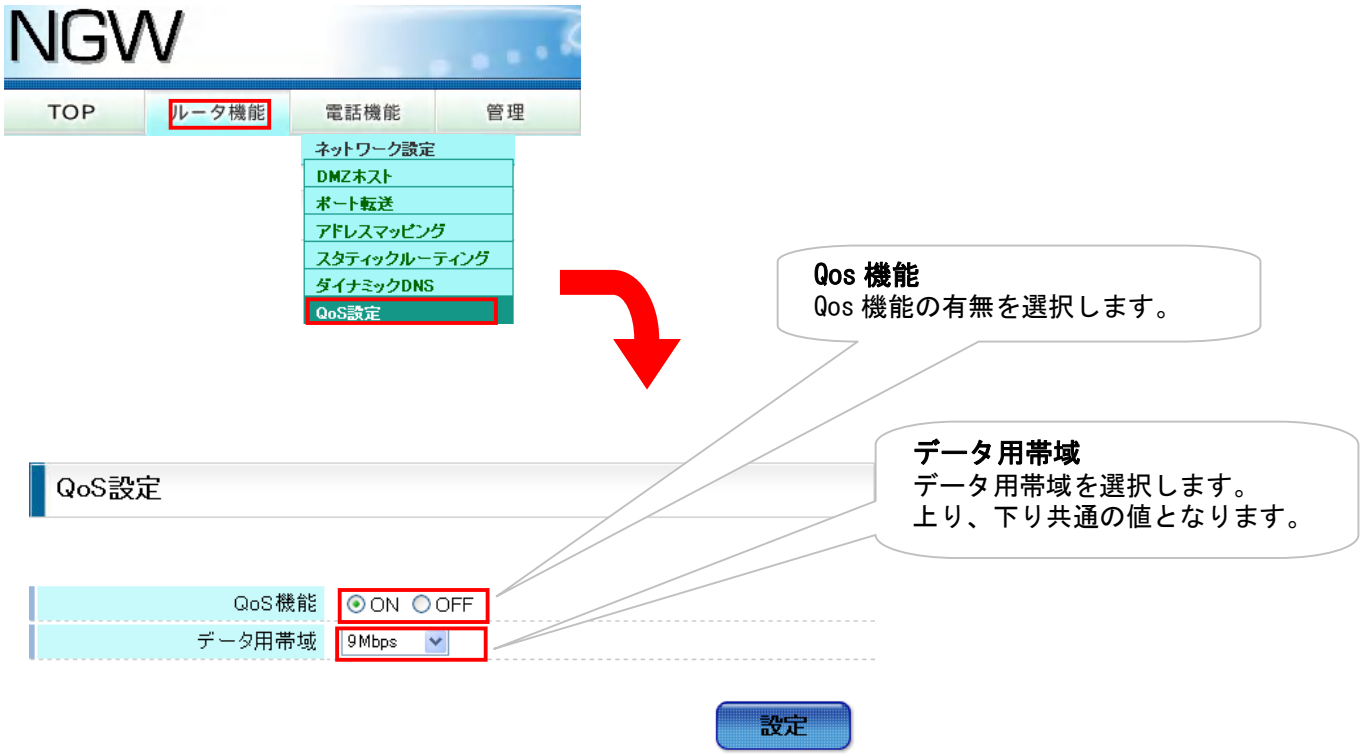
利用可能プロバイダー覧

プロバイダ	ホストネーム	ドメイン名
Dyndns	設定可	・dyndns.org ・homeip.net ・homedns.org ・その他（ドメインネームの入力が必要）
dtDNS	設定可	・dtdns.net ・darkech.org ・slyip.net ・flnet.org ・scieron.com ・その他（ドメインネームの入力が必要）
No-ip	設定可	・no-ip.com ・no-ip.biz ・no-ip.info ・no-ip.org ・その他（ドメインネームの入力が必要）
IeServer	設定不可	・myhome.cx ・jph.ph ・fam.cx ・dio.jp ・その他（ドメインネームの入力が必要）
Instat	設定不可	設定不可
DynamicDo!.Jp	設定不可	設定不可

※ユーザ ID、パスワードはプロバイダに関係なく必須です。

６．Qos を設定する

ネットワーク上で使用する IP 電話の為の帯域を予約し、音声品質を損なわないようにさせる事が可能です。
設定は TOP 画面より『ルータ機能』⇒『ネットワーク設定』⇒『Qos 設定』から行います。



内容項目	説明	設定範囲	初期値
Qos 機能	音声に対して、Qos 設定を行うかどうかを選択します。	ON OFF	ON
データ用帯域	WAN 回線の上り、下り速度を選択します。 ※IP 電話で使用する帯域より少ない送信速度（チャネル数×100kbps）を設定する事はできません。	1-100Mbps	9Mbps

※音声データ併用で使用する場合については 9Mbps にてのご使用を推奨しております。

ご質問・お問い合わせは

本装置に関する技術的なお問い合わせは以下までご連絡ください。

電子メールでのお問い合わせ
　メール：

Webでのお問い合わせページ
　URL:http://

故障の際は

別紙、取扱説明書、保証書をご参照の上、お買い上げの販売店までご連絡ください。

NEPRO-04/08a
NEPRO-02/04b設置設定マニュアル
　２００７年１２月　１日　第１．０版
　株式会社ネプロジャパン